

工学部・工学研究科資料集

2022.11 Vol.14



静岡大學

工学部・工学研究科資料集

福 岡 大 学

工 学 部

工 学 研 究 科

目次

はじめに

第1章 工学部の教育活動・教育改善活動

- 1.1 工学部全体の教育改善活動…………… 2
- 1.2 工学部各学科の教育活動および教育改善活動…………… 2

第2章 大学院工学研究科の教育活動

- 2.1 入試状況…………… 12
- 2.2 学生在籍状況…………… 13
- 2.3 学年暦…………… 14
- 2.4 専門科目一覧…………… 15
- 2.5 修士論文一覧と博士論文一覧、学生が受賞した学術賞…………… 23

第3章 研究活動

- 3.1 学術論文と学会発表、学術賞…………… 29
- 3.2 科学研究費採択課題一覧…………… 30
- 3.3 産学連携活動の外部資金（受託研究・研究助成）…………… 33

第4章 入学・広報活動

- 4.1 入試制度…………… 34
- 4.2 入試状況…………… 35
- 4.3 模擬講義…………… 37

第5章 教務・図書・学生支援

- 5.1 学生在籍状況…………… 38
- 5.2 学年暦…………… 39
- 5.3 専門科目一覧…………… 40
- 5.4 図書工学部分室書籍貸出数…………… 46
- 5.5 学生が取得した資格…………… 47
- 5.6 「学習意欲向上と工学基礎教育の充実」プロジェクト…………… 48

第6章 国際交流

- 6.1 学生の留学状況…………… 49
- 6.2 「情報技術を用いたグローバル対応エンジニア教育」プロジェクト…………… 49
- 6.3 大学間協定・部門間協定…………… 50

第7章 就職・進路状況

- 7.1 就職状況…………… 51
- 7.2 大学院進学状況…………… 53

第8章 地域貢献

- 8.1 社会へのサービス活動…………… 55
- 8.2 社会へのボランティア活動…………… 61
- 8.3 学外組織との連携協力による教育研究の推進…………… 62

はじめに

工学部長 森山 茂章

工学研究科長 佐藤 寿倫

本資料集は、工学部および工学研究科の活動状況を記録に残し学内外に公開するために、第1号の工学部・工学研究科報を2005年11月に発行して以来、今回で14回目の発行となります。

令和3年度における工学部および工学研究科の様々な活動や取り組みの状況をまとめています。教育・教育改善活動については、工学部全体および各学科・各研究科の活動を記載し、研究活動、入学・広報活動、教務・図書・学生支援、国際交流、就職・進路状況については、現状と改善点などを記載しています。また、社会へのサービス活動やボランティア活動、学外組織との連携協力による教育研究の推進といった地域貢献については新たな取り組みの内容を記載しています。

令和2年度に引き続き、令和3年度も、新型コロナウイルスの感染症の拡大により、工学部・工学研究科においても教育や研究などに大きな影響を受けましたが、教育においては、感染防止に極力留意しながら、対面授業を基本とし、一部遠隔授業で対応するなど、様々な工夫を行いながら実施しました。また、ものづくりセンターにおいても、ロボコン等の全国大会への出場を目指したプロジェクト企画等が中止となる中、令和4年度に出場を予定しているプロジェクト企画の制作をコロナ渦の中でも行える範囲で取り組みました。

工学部は、今年2022年に60周年を迎えます。今後もより一層の教育の質の向上に取り組み、環境の充実を図っていききたいと思います。また、学部・学科の垣根を越えた新しい教育やプロジェクトを進めていききたいと思います。

第1章 工学部の教育・教育改善活動（令和3年度）

1.1 工学部全体の教育改善活動

1.1.1 教育改善活動

(1) 共通教育研究センター・工学部懇談会

例年通り3月半ばに開催を予定していたが、新型コロナウイルス蔓延防止の観点から、両部署間にて協議の上で見合わせることにし、例年提供頂いている内容資料の提供を受け、メールでの意見交換の実施により懇談会の代替とした。

(2) 理学部・工学部懇談会

令和4年3月22日に理学部・工学部懇談会を開催し、主に工学共通科目に関する意見交換を行った。理学部からは、実験科目の運用、BYODについて、配慮が必要な学生の情報、講義科目の形態についての議題が挙げられた。一方、工学部からは、アスリート特別選抜・留学生クラスと工学共通科目の時間割重複についての議題が挙げられた。

1.1.2 活動全般の成果および点検・評価

(1) 共通教育研究センターおよび理学部との懇談会

新型コロナウイルスの影響で、共通教育研究センターとの対面での懇談会は開催できなかったが、例年同様の情報共有およびメールでの意見交換を実施した。理学部・工学部懇談会では、理学部から工学共通科目の状況に関する状況の説明がなされ、情報が共有された。また、工学部からは工学共通科目の時間割に関する要望が出され、次回の時間割編成時に理学部で対応することが確認された。

1.2 工学部各学科の教育活動および教育改善活動

1.2.1 機械工学科

1.2.1.1 教育活動

昨年度に引き続き、通常の教育活動に加えてキャリア教育を充実するために以下の活動を行う予定であったが、多くの例年行事がコロナ禍の影響で中止となった。

(1) 1年生に対し外部講師によるコンピテンシー講座、診断とフォローアップ講座をビデオにより実施した。

(2) OBなどの外部講師によるキャリア教育

3年生に対してOBとの面談をWEB上で実施した。

- ① 富士通ゼネラル（令和3年10月6日）
- ② 大同特殊鋼（令和4年1月28日）
- ③ 東芝プラントシステム（令和4年2月3日）
- ④ 神鋼テクノ（令和4年2月4日）
- ⑤ モビテック（令和4年2月7日）
- ⑥ アスパーク（令和4年2月8日）
- ⑦ ジョンソンコントロールズ（令和4年2月10日）
- ⑧ 日鉄テックスエンジ（令和4年2月14日）
- ⑨ アルプス技研（令和4年2月14日）
- ⑩ 三菱自動車工業（令和4年2月15日）
- ⑪ 竹田設計工業（令和4年2月17日）
- ⑫ 西部技研（令和4年2月18日）
- ⑬ リックス（令和4年2月24日）

- ⑭ SMC（令和4年3月3日）
 - ⑮ 大林道路（令和4年3月4日）
 - ⑯ 日産自動車（令和4年3月12日）
 - ⑰ リックス（令和4年3月15日）
 - ⑱ 西日本技術開発（令和4年3月24日）
 - ⑲ 日鉄環境（令和4年3月25日）
- (3) 特別講演会によるセミナー
コロナ禍の影響で中止とした。

1.2.1.2 教育改善活動

令和3年度は学科会議において、授業改善に関して以下のような項目について検討を行った。

- (1) 修学指導の実施などについて（令和3年4月7日・4月14日・6月2日・6月23日・7月21日・9月15日・10月6日・10月27日）
- (2) カリキュラム改正について（令和3年6月2日・7月7日・7月21日・8月4日・9月15日・10月27日）
- (3) 学年暦改革について（令和3年7月21日）
- (4) 教育に関する会議報告（令和3年4月14日・5月12日・6月23日・7月21日・8月25日・9月15日・10月27日・11月24日・12月15日・令和4年1月19日・3月9日）
- (5) 来年度の新入生スタートセミナーの実施について（令和3年10月27日・11月17日・12月1日）
- (6) 修学支援について（令和3年4月7日・9月15日・令和4年3月30日）

1.2.1.3 学外研修等への参加状況報告

- (1) 「日本機械学会九州支部第75期総会・講演会」令和4年3月9日、九州大学（オンライン開催）（学部生13件）
- (2) 「FOREN21(2ND FORUM OF REVOLUTIONS IN RENEWABLE ENERGY IN 21ST CENTURY)」Mar 21 - 22, 2022 - Budapest, Hungary（オンライン開催）（学部生4件）
- (3) 「第4回ハイブリッドロケットシンポジウム」令和4年2月（学部生1件）
- (4) 「安全工学シンポジウム2021」令和3年6月（学部生1件）
- (5) 「第4回ハイブリッドロケットシンポジウム」令和4年2月（学部生2件）
- (6) 「日本鉄鋼協会第183回春季講演大会」令和4年3月15日（火）～17日（木）（学部生3件）
- (7) 「工場見学（短距離）」の実施はコロナ禍の影響のため計画を断念した。

1.2.1.4 活動全般の成果および点検・評価

- (1) 今年度はTeams上での実施となったが、ほぼ毎週学科会議を開催して学科教員間での情報の共有と意見交換を行い、学科内でのチームワークと連携プレー、各教員の特質を生かした役割分担を行っている。その結果、学生に対する教育方針が統一され、学生も一貫した指導方針に基づいた教育を受けることができるので、安心して勉学に集中することが可能となっている。
- (2) 今年度は、新入生および2年生を対象とした『自分発見！スタートアップセミナー』をオンラインで実施した。このような人間関係を深めるセミナーは、これからの大学生活のみならず就職活動や社会に出てからも大いに役立ち、かつ学生達は今後の学生生活へと向けて、良い友達作りの輪を広げることができるため、来年度は対面による実施をしたい。
- (3) 今年度は、3年生に対してOBと語る機会をWEB上・対面で実施した。就職を控えた3年生にOBからの生の声を聞いたのは、就職した後の具体的な企業活動を知る上で大変に良い機会であったと考える。

- (4) 前期は収容率に応じた対面・遠隔・併用の講義が行われ、コロナ禍の影響は軽減された。後期ではほぼ対面講義が実施され、卒論生、修士学生に対しては適切な入構管理、またパーティション設置の徹底をすることで、卒業論文、修士論文を完遂することができた。
- (5) 次年度以降、状況の改善が見られた場合、「工場見学（短距離）」は実施していきたい。
- (6) 今年度は、海外（オンライン）シンポジウム、日本機械学会などの講演会に本学学生の発表あり、学生の研究活動が活発であった。海外発表においては4件の発表があり、よい経験をさせることができた。コロナ禍の中で、例年以上の成果が挙げられた意義は大きい。

1.2.2 電気工学科

1.2.2.1 教育活動

- (1) 新入生スタートアップセミナーの実施

開催日：令和3年4月8日（金）

参加者：新2年生および新1年生対象（3時間ずつ実施）

内 容：記者会見（自己紹介）と相互インタビュー

- (2) 電気工事士（2種）試験対策講座

開催日：後期中の2か月の隔週で4回

参加者：教員1名、学生3名

内 容：複線図の見方・書き方、実技の説明、工具の使用法・電線の接続方法などの実習。試験前に確認テストの実施。

活動の成果および点検・評価：

講義で学ぶ理論のみでは行うことのできない回路の配線について、実際に何度も繰り返して作り上げる練習をすることにより、学生の実技能力の向上させる指導を行った。

1.2.2.2 教育改善活動

令和3年度は学科会議（対面、オンライン、メール審議）において、以下のような項目について討論・改善を行った。

- (1) 修学指導の対象者の検討（令和3年4月28日）

修学指導の対象者を選別する基準の検討を行った。

- (2) 3つのポリシー検討（令和3年5月17日）

電気工学科の3つのポリシーの見直しのための検討を行った。

- (3) 少人数教育科目「基礎電気工学」の実施方法検討（令和3年9月13日）

開講日程、グループ分け、テキスト、e-learningの適用方法、最終試験、講義資料の確認を行った。

1.2.2.3 学外研修等への参加状況報告

特記すべき事項無し。

1.2.2.4 活動全般の成果および点検・評価

- (1) 電気工学実験Ⅲで使用している高電圧電源において、微量PCBが混入した絶縁油を使用している変圧器があり、2026年までに廃却の必要があることから、計画的に更新していく。

- (2) Moodleを利用したe-learning用の教材は、学生一人一人に対応した学習が可能になるため、今後も適用の拡大をさらに進めていく。

1.2.3 電子情報工学科

1.2.3.1 教育活動

昨年度に引き続き、通常の教育活動に加えてキャリア教育を充実するために以下の活動を行った。

- (1) 新入生スタートアップセミナーの実施
開催日：令和3年4月8日（水）
場 所：オンライン
内 容：新入生間の親睦を図り、学生間のネットワーク構築を支援すべく、スタートアップセミナーを実施した。また、教員を交えたセッションも実施した。
- (2) 「先輩と語る」の実施
1年生科目「電子情報工学特論」の1コマを使って「先輩と語る」を実施した。
日 時：令和3年5月14日，7月30日
場 所：オンライン
- (3) SPIの模擬テストの実施
日 時：令和3年5月7日
場 所：1121教室
1年生と3年生に対してSPIの模擬テストを実施した。
- (4) コンピテンシーテストの実施
日 時：令和3年4月30日
場 所：1121教室
1年生を対象に、電子情報工学特論の中で、自己分析を目的としたコンピテンシーテストを実施した。
- (5) 電子情報産業論の実施
日 時：令和3年6月11日，6月18日，7月9日，7月16日
場 所：オンライン
2年生を対象に、電子情報基礎演習の4コマを使って、下記の企業から招いた講師による、電子通信産業、情報産業における最新の技術、トレンド、技術者としての仕事に関する講演を実施した。
(株) KDDI総合研究所
日本電気通信システム（株）
福岡県情報サービス産業協会
富士通九州ネットワークテクノロジーズ（株）
- (6) 卒業論文（情報システムコース）の総合演習の実施
JABEEでは、異分野の人を含む他者と協働する能力の涵養を要請しており。それを受けて例年、他学部・他学科の学生のゼミ形式での演習を実施する等の活動を行っていた。令和3年度はコロナ禍のため、ゼミ形式での演習は見送り、「専門性の異なる他者との協働の際に求められる能力や技能」の題目でレポート課題を課すこととした。

1.2.3.2 教育改善活動

令和3年度は授業改善検討会議（学科会議）において、以下のような項目について検討・改善を行った。

- (1) 令和3年度修学指導に関して（令和3年4月7日，4月28日）
例年通りの基準と段取りで修学指導を行うこととした。コロナ禍の成り行きを見ながら、対面，遠隔，いずれの形態でも実施してよいものとした。
- (2) 新2年生のケアに関して（令和3年4月7日）
新2年生の成績分布を昨年度の2年生の成績分布と比較し、その結果、特に悪化していない

ことを確認した。新学期からの学生生活への不安を訴える新2年生が数名いたため、2年生の全コース必修の講義を担当している教員が、初回の授業で学生生活のガイダンスを実施することにした。

- (3) 薬物乱用防止啓発に関して（令和3年4月14日）
moodleまたはFU_box上に複数の薬物乱用防止教材（ネット上の動画またはPDF）へのリンクを配置したうえで、学生にそれら教材を視聴させることにした。
- (4) 電子情報産業論（令和3年4月21日）
富士通九州ネットワークテクノロジーズに講師を依頼することになった。
- (5) 高校数学学力到達度調査の集計結果の確認（令和3年5月19日）
平均点は、学部では最も高かったが、昨年、一昨年より悪化していることを情報共有した。問題毎の正答率は例年とほぼ同じ傾向だった。
- (6) プレ卒説明会実施の段取り（令和3年6月16日）
各研究室の紹介動画をFU_boxにアップロードしたものを学生が視聴し、配属希望研究室を決める、オンライン形式で開催することにした。
- (7) 卒業論文の成績評価に関して（令和3年7月7日、12月22日）
卒業論文Iについては、昨年同様のプロセスで採点を行い、成績評価の根拠資料をFU_box上で回収することとした。一方、前回のJABEE審査において不備を指摘されていた卒業論文の評価観点を改め、卒業論文IIより施行した。
- (8) JABEEの根拠資料に関して（令和3年7月7日、9月1日、9月15日）
定期試験答案や手書きレポート以外のJABEEの根拠資料を電子化してFU_box上に保存し、これまで相当の時間を要していたファイリングの手間をなくし、紙ファイルをやりとりなく根拠資料のチェックができるようにすることにした。また、工学特論や基礎演習などTL教員全員が担当する科目のJABEE根拠資料点検の工数が大きいため、複数人で手分けして点検する体制を組むこととした。
- (9) 拡大学科会議に関して（令和3年9月15日）
JABEEから教育点検および教育改善委員会の構成員に助教が含まれていないことを問題視されたことを受け、夏期・春期休業中に最低1回ずつ拡大学科会議を行い、あわせて学科会議の議事録を助教にも開示・共有することとした。
- (10) 次年度の新入生スタートセミナーに関して（令和3年11月24日）
例年通り、令和4年度もラーニングバリューに新生スタートセミナーを委託することとした。
- (11) 推薦入試に関して合格者向けの課題（令和3年11月17日、11月24日、12月8日）
学校推薦型選抜（指定校・付属校）の面接と試験について、コース希望、大学院進学希望、試験問題の正解／不正解の傾向に関する情報を共有した。また、例年通り、推薦入試合格者向けの課題として東進DVDゼミ（任意、有料）を採用することとした。オリエンテーションは昨年同様、対面ではなく、オンデマンドで実施することとした。
- (12) コース分け・転コース説明会の段取りに関して（令和3年12月8日）
1年生向けのコース分け説明会、ついで2年生の転コース希望者向けの説明会を1月27日に実施することとした。
- (13) JABEE外部評価に関して（令和3年12月8日）
JABEEで求められている外部評価に関して、ネットワーク応用技術研究所、西部ガス情報システム、九州大学から外部評価委員を呼ぶこととした。

1.2.3.3 学外研修等への参加状況報告

- (1) 令和3年度大学電気系教員協議会総会・教育研究集会
主 催：大学電気系教員協議会

開催日：令和3年9月7日（火）

場 所：オンライン

参加者：モシニヤガ・ワシリー

(2) 令和3年度理工系情報学科・専攻協議会 総会・研究会

主 催：理工系情報学科・専攻協議会

開催日：令和3年7月10日（土）

場 所：オンライン

参加者：鶴田直之

1.2.3.4 活動全般の成果および点検・評価

令和2年度に始まるコロナ禍により、特に学部2年生については、1年の間はずっと、2年の間は断続的に、オンラインでの授業を強いられていた。大学生活の出鼻でのネットワークづくりに制限が加えられたため、学科会議においては、学部2年生の成績やメンタルの状態が議論されることがたびたびあり、必要に応じて対策が講じられた。

電子情報工学科では、実験科目ごとに Microsoft Teams のチームが立ち上げられており、上述のような懸念事項や実験指導の進め方などはそこで議論されることが少なくない。同ツールは、学科会議、拡大学科会議と並ぶ、新しい教育改善の場として定着している。

JABEE については、これまで根拠資料の準備、整理、点検に相当の手間をかけていたが、令和3年度より FU_box による電子的な提出と共有、点検のプロセスを定めた。紙ファイルと異なり、時と場所を選ばず、他の教員の根拠資料を閲覧でき、どのようにどの程度の資料を用意すればよいのか、教員間で共通認識を涵養することが容易になった。こうした点検・改善活動に係る仕事量は増える一方であり、それが直接業務たる教育に割く時間を奪い、ひいては教育の品質を下げってしまうようでは本末転倒であり、今後も点検・改善活動に要する手間を下げ、取組みを継続していきたい。

1.2.4 化学システム工学科

1.2.4.1 教育活動

令和3年度は、通常教育活動に加えて、専門科目履修に向けた新入生の基礎学力確保、キャリア教育の充実などを目的として、以下に示す活動を実施した。

(1) リメディアル数学、数学演習クラス

令和3年4月14日～7月14日 毎週水曜5限： 4月5日 5限に「高校数学の学力到達度調査」を実施し、学力別のクラス分けを行った。第1～11回では授業、第12回では期末試験を実施した。

(2) リメディアル物理

令和3年4月14日～7月28日 毎週水曜2限： 第1回に「高校物理の学力到達度調査」を実施し、受講対象者を選抜した。第2～14回では授業を実施した。

令和3年7月23日 1限： 1年生全員を対象として、期末試験を実施した。

(3) 進路説明会（3年生対象）

日 時：令和3年10月19日（火）13:00～14:00（「化学工学実験Ⅱ」において実施）

場 所：643教室、644教室（希望者にはWebexによるオンライン開催）

内 容：就職活動に対する心構え

大学院進学の説明

研究室仮配属の説明

質疑応答

(4) 先輩と語る（3年生対象）

日 時：令和3年11月26日（金）13:00～16:10（「化学工学実験Ⅱ」において実施）

場 所：1131教室（第一部）、643・644教室（第二部）

内 容：（第一部）大学院生と化学システム工学科0Bのお話を伺う

講演 1：学生生活から今までを振り返って

龍 愛美 氏（(株)旭製作所、2018年度博士前期課程修了）

講演 2：後悔しない選択のために

秋山 廉 氏（化学システム工学専攻博士前期課程2年）

学科就職担当者からの連絡

（第二部）各研究室の4年生・大学院生との懇談会

(5) 日本語能力基礎調査の実施（1年生対象）

1.2.4.2 教育改善活動

令和3年度は、教育改善活動として、以下に示す活動を実施した。

(1) 教育改善会議

日 時：令和3年7月21日（水）16:30～16:50

場 所：Webexによるオンライン開催

内 容：令和2年度授業評価アンケートの集計結果を基に作成された授業改善シートに基づく講義概況の報告（各科目担当の先生方）

科目毎に問題点の抽出、来年度以降の授業改善方法に関する意見交換

(2) JABEEプログラム外部評価会議およびJABEEプログラム勉強会（学科教職員対象）

日 時：令和4年3月2日（水）11:00～12:00

場 所：Webexによるオンライン開催

内 容：本学科JABEEプログラムおよびカリキュラムの説明

外部講師 寺嶋正明 氏（神戸女学院大学・教授）による講演

質疑応答

1.2.4.3 学外研修等への参加状況報告

特記すべき事項なし。

1.2.4.4 活動全般の成果および点検・評価

令和2年度から導入されたスタートアップ授業の影響により、例年授業内で実施していたSPI模擬試験（1年生は「修学基礎演習」、3年生は「化学工学演習II」で実施）を授業内に実施することは、令和2年度に引き続き令和3年度も不可能であった。

コロナ禍の影響により、例年実施していた新入生合宿研修会（1年生・4月上旬）および工場見学（3年生・9月中旬）は、令和2年度に引き続き令和3年度も実施不可能であった。

一方、専門科目履修に向けた新入生の基礎学力確保を目的としたリメディアル科目および日本語能力基礎調査（1.2.4.1）、およびキャリア教育の充実を目的とした3年生対象の説明会等（1.2.4.1）は、原則対面で開催することができた。教育改善を目的とした教員向けの会議および講習会（1.2.4.2）はオンラインでの開催となったが、当該活動を通じてPDCAを「持続的・継続的」に回していくことの重要性、専門教育における学びの多様性とそれらの重要性を学科教員一人一人が再認識した。

1.2.5 社会デザイン工学科

1.2.5.1 教育活動

(1) 「社会デザイン工学科チーム力養成ゼミ」の実施

チームワーク力の育成のために4年生全員を対象としてチーム力養成ゼミを実施した。学部講義で得た知識、技術、技能や所属研究室の学術分野の知識を融合し、社会デザイン工

学的解決策をチームで導き出す。そのために、第一ステップでは、チームとして仕事をするための各種基礎能力を養うとともに、その重要性についての気づきを得る。そして第二ステップでは、第一段階での学習を踏まえ、PBL(Problem Based Learning)を通じてチームとして仕事をするための各種基礎能力の習熟度を高めていく。

・実施スケジュール

令和3年8月下旬 概要説明（オンデマンド配信）

令和3年9月6日（月）～9月17日（金） ミーティング（担当教員を含む）（Webex）

令和3年9月20日（月）～10月8日（金） グループディスカッション1（同上）（Webex）

令和3年10月11日（月）～10月29日（金） 同上2（同上）（Webex）

令和3年11月1日（月）15:30～17:00 最終報告会（対面）

・グループ：各研究室から1名をランダムに選出し、合計10グループとした。

(2) インターンシップの実施

3年次開講科目「キャリアデザイン」（必修科目）の一環として、インターンシップの参加を単位取得の必須条件としていたが、コロナ禍であることも踏まえ、2021年度はあくまでも参加推奨に切り替えた。コロナ感染拡大により中止となったものも多かったが、大半の学生はインターンシップ参加を希望し、準備を進めていた。9月17日（金）に有志の参加でインターンシップ報告会を行った。

1.2.5.2 教育改善活動

(1) 修学指導対象学生の検討

修学指導対象基準に該当しない学生について、副担任が指導が必要と判断した学生も修学指導を実施することが確認された。

(2) 実験・演習科目の再編に関する審議（令和3年7月19日）

実験・演習科目に対する教育効果を向上させるため、実験科目の再編について議論を行った。時間割の都合上、TA担当人数に偏りが出るなどの課題が指摘されたこと、レポート添削指導の費用対効果などを踏まえ、1案は3つある実験・演習科目を2つにすること、2案は3科目のままにした上でレポートの負担を減らすことなどが議論された。担当コマ数や労力配分などの課題も多く出されており、継続審議となった。

(3) シラバス読み合わせ会の実施（令和4年1月20日）

令和4年度のシラバスについて、到達目標、授業計画のチェックを目的とした学科教員全員による読み合わせ会が実施された。FU_boxに各科目のシラバスを保存し、確認担当者を決めて期限（1月20日）までにチェックシートに記載する形で実施された。

(4) 社会デザイン工学科チーム力養成ゼミの開催方法の改善（令和4年3月14日）

令和3年9月～11月に実施された社会デザイン工学科チーム力養成ゼミの実施報告がなされ、反省点と今後の課題が出された。それを踏まえ、いきなりチームワークを必要とする課題に取り組むのではなく、協働することへの理解、コミュニケーション力、チームワークとその中での自身の役割を意識するなどの講義を外部講師に依頼する方法に変更することになった。

1.2.5.3 学外研修等への参加状況報告

特記すべき事項なし。

1.2.5.4 活動全般の成果および点検・評価

今年度は緊急事態宣言下における授業の実施から徐々に対面授業の再開、対面による定期試験の再開に至る過程がみられたため、従来の教育方法に戻すものと、遠隔授業での経験を踏まえた改善とが同時進行で進められた。チーム力養成ゼミについては、教育効果自体は認められ

たものの、まずは協働すること、コミュニケーション力、チームワーク力等に対する基礎的な理解をより徹底することを念頭に、開催方法を変更することになった。また実験・演習科目の再編に関する議論がなされたが、担当コマ数や労力配分などの課題も多く継続審議となった。

1.2.6 建築学科

1.2.6.1 教育活動

- (1) 新入生履修ガイダンス，新入生指導懇談会および新入生研修旅行
令和3年4月2日（金）～4日（日）にオンデマンド配信による新入生履修ガイダンスを、4月6日（火）に新入生指導懇談会を行った。また、新入生研修旅行を、学生をいくつかのグループに分け5月～6月の間で行った。
- (2) SPIの模擬テスト
1年生を対象にSPIの模擬試験およびコンピテンシー試験をオンラインで行った。
- (3) アドバイザー訪問
実施日：1年生：令和3年4月19日～23日、9月20日～10月1日、令和4年3月16日～3月28日
2・3・4年生：令和3年9月20日～10月1日、令和4年3月16日～3月28日
実施内容：アドバイザー担当教員が個別面談を対面もしくはオンラインで実施した。
- (4) 建築学科キャリアセミナーの実施
就職活動を始める3年生を対象に、令和3年11月17日（水）、24日（水）、12月1日（水）、8日（水）の4日間キャリアセミナーをオンラインで実施した。建築関係の各企業の企業説明の動画（5分）を流し、その後、個別相談・質疑コーナーを設けて行った。
- (5) 「先輩と語る」の実施
在学生を対象として、「先輩と語る」を実施した。
開催日：令和3年8月2日（月）～8月5日（木）
場 所：11号館 1122教室、建設現場（見学）
講 師：小島加誉氏、永松怜子氏、石橋透光氏、島津快彦氏、白石暁史氏、鋤遼太郎氏、南方雄貴氏、原田収一郎氏、奥村誠一氏、大庭拓也氏（11名）

1.2.6.2 教育改善活動

- (1) 建築学科JABEE委員会
開催日：令和3年8月17日（火）・9月14日（火）の計2回開催
内 容：JABEEプログラム点検書の返答書の作成、オンライン実地審査の準備等について検討を行った。
- (2) JABEEオンライン実地審査の受審
審査日：令和3年9月15日（水）、20日（月）、25日（土）の3日間
内 容：JABEE継続審査の実地審査がオンラインで実施され、エビデンスの閲覧、教員・学生・修了生の面談、施設説明等の審査に対応した。結果的に令和2年4月1日から6年間の認定を得ることができた。
- (3) 修学指導
成績がふるわない学生（2～4年生）を対象に修学指導を行った。
- (4) 推薦合格者の入学前教育の実施
入学前教育として推薦合格者に課題を課し、提出された課題内容を教員でチェックした。
- (5) 福岡大学建築展
福岡大学建築展2022（第15回）
開催日：令和4年2月18日（金）～2月20日（日）
会 場：アクロス福岡1階アトリウム
内 容：設計展示として、卒業計画の優秀作品（七隈建築賞・福岡県建築士会賞、誓揚会

賞、優秀作品賞、佳作等)、3年生の設計課題、コンペ入選作品を展示した。

また、論文展示として、日本コンクリート工学会九州支部長賞、空気調和・衛生工学会振興賞学生賞、日本都市計画学会九州支部長賞、都市住宅学会九州支部優秀学生賞等受賞論文を含む、各研究室で選出された論文を展示した。

(6) 設計計画系ミーティングおよび講義研究会

開催日：令和3年5月11日（火）・10月21日（木）・12月2日（木）・令和4年2月14日（月）・2月28日（月）の計5回開催

(7) 構造系講義検討WGおよび構造系講義研究会

開催日：令和3年6月16日（水）・8月6日（金）、令和4年2月22日（火）の計3回開催

(8) 外部評価会議

卒業計画優秀作品選考会の実施

日 時：令和4年1月22日（土）13:00～17:50

場 所：5号館541製図室

参加者：外部評価委員（8名）鮎川 透氏（環・設計工房 本学非常勤講師）、黒瀬 重幸氏（福岡大学名誉教授 本学非常勤講師）、佐々木 翔（Inter Media一級建築士事務所 本学非常勤講師）、佐藤 真紀（佐藤真紀&FUN建築設計事務所 本学非常勤講師）、田中 俊彰氏（田中俊彰設計室 本学非常勤講師）、田中 康裕氏（キャディスと風建築工房 本学非常勤講師）、前原 博氏（前原設計事務所 本学非常勤講師）、松山 将勝（松山建築設計室 本学非常勤講師）、教員（7名）池添 昌幸、太記 祐一、趙 翔、宮崎 慎也、四ヶ所 高志、野田 りさ、松永 一郎、学部4年次生、大学院生

内 容：建築学科の開講科目「卒業計画」（4年生通年必修）の優秀作品選考会の審査員として、8名の外部評価委員を招聘した。「卒業計画」では、学生が研究室に所属して行った研究成果を論文か設計作品にまとめ発表し、その設計作品の中から学内の教員が高く評価した12作品について、学生のプレゼンテーション、図面、模型などを、それぞれ検討・評価をして頂いた。そして学内の教員も交え、12作品全体について意見交換を行い、特に優秀な作品の選考を行った。一連の作業を通して、実際に建築設計の実務に携わっている現役の専門家から、様々な意見を聴取することができ、「卒業計画」の教育効果を検証する手がかりを得るとともに、学部における設計教育全体の方針を再検討するための重要な知見を得ることができた。

1.2.6.3 学外研修等への参加状況報告

特記すべき事項なし。

1.2.6.4 活動全般の成果および点検・評価

令和3年度も、教室会議と学科内教務委員会において、講義・演習や卒業計画等の授業科目、修学指導の関連行事について継続的に検討し、教育改善を継続的に実行している。

専門科目のシラバスは、分野の近い教員が分担して相互にチェックし、その後、学科主任が全体調整を行い、改善すべき点があれば指摘するなど、相互点検と改善を行っている。

また、キャリアデザイン教育の充実を図るために3年次生を対象として「キャリアセミナー」を実施するなど、継続的に点検・評価を行っている。

上記の活動項目のほかにも、福岡工業高校等の高校教育への貢献、イヤーズブックを用いた教育成果の情報発信などを実施し、教育改善の成果を上げている。

第2章 大学院工学研究科の教育活動

2.1 入試状況

推薦、秋季、春季入学試験の過去5年間における各専攻の受験者数と合格者数を示す。

課程・専攻	入学年度 (実施年度)	推薦		秋季		春季		合計		
		志願者数	合格者数	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数	
博士課程前期	機械工学	2022(R3)	7	7	5	5	0	-	12	12
		2021(R2)	10	10	6	3	4	2	20	15
		2020(R1)	5	5	2	2	1	1	8	8
		2019(H30)	3	3	0	-	0	-	3	3
		2018(H29)	4	4	4	2	0	-	8	6
	電気工学	2022(R3)	10	10	3	2	2	1	15	13
		2021(R2)	8	8	6	5	3	2	17	15
		2020(R1)	4	3	5	1	4	3	13	7
		2019(H30)	5	5	4	4	1	1	10	10
		2018(H29)	8	8	1	0	3	3	12	11
	電子情報工学	2022(R3)	4	4	11	10	2	1	17	15
		2021(R2)	5	5	8	7	3	1	16	13
		2020(R1)	1	1	6	6	2	1	9	8
		2019(H30)	4	4	8	7	2	1	14	12
		2018(H29)	3	3	4	2	7	5	14	10
	化学システム工学	2022(R3)	12	12	2	2	0	-	14	14
		2021(R2)	17	17	4	3	3	3	24	23
		2020(R1)	13	12	8	7	7	7	28	26
		2019(H30)	5	5	10	9	3	3	18	17
		2018(H29)	9	9	6	6	4	4	19	19
建設工学	2022(R3)	3	3	9	8	4	3	16	14	
	2021(R2)	5	5	12	12	2	1	19	18	
	2020(R1)	3	3	7	5	6	4	16	12	
	2019(H30)	3	3	13	12	8	7	24	22	
	2018(H29)	8	8	7	5	5	4	20	17	
修士課程	資源循環・ 環境工学	2022(R3)	0	-	3	1	3	3	6	4
		2021(R2)	1	1	1	1	3	2	5	4
		2020(R1)	4	4	2	2	2	2	8	8
		2019(H30)	2	2	2	2	1	1	5	5
		2018(H29)	0	-	4	2	4	4	8	6
博士課程後期	エネルギー・ 環境システム工学	2022(R3)	/		1	1	1	1	2	2
		2021(R2)			1	1	2	2	3	3
		2020(R1)			1	1	2	2	3	3
		2019(H30)			0	-	1	1	1	1
		2018(H29)			1	1	2	2	3	3
	情報・制御 システム工学	2022(R3)			1	1	1	1	2	2
		2021(R2)			1	1	0	-	1	1
		2020(R1)			1	1	0	-	1	1
		2019(H30)			1	1	1	1	2	2
		2018(H29)			0	-	2	2	2	2

2.2 学生在籍状況

令和3年度 工学研究科在籍者数一覧

(令和3年5月1日現在)

課 程		博士課程前期（修士課程）			博士課程後期				合計
専攻	年次 学年 (入学年)	1年 (2021)	2年 (2020)	3年以上 (2019以前)	1年 (2021)	2年 (2020)	3年 (2019)	4年以上 (2018以前)	
機 械 工 学	女子 休学	0	0	0	/	/	/	/	0
	在籍	15	8						0
電 気 工 学	女子 休学	0	0	0					0
	在籍	15	7						0
電 子 情 報 工 学	女子 休学	0	0	0					0
	在籍	11	7						0
化学システム工学	女子 休学	4	5	0					9
	在籍	20	25						0
建 設 工 学	女子 休学	5	1	1					7
	在籍	17	12	2					1
資源循環・環境工学	女子 休学	2	0	0					2
	在籍	4	8						0
博士課程前期・ 修士課程 合計	女子 休学	11	6	1					18
	在籍	0	0	1					1
		82	67	2					151
エネルギー・環境 システム工学	女子 休学				1	0	0	1	2
	在籍				3	3	1	3	0
情報・制御システム 工 学	女子 休学				0	0	0	0	0
	在籍				1	1	2	1	0
博 士 課 程 後 期 合 計	女子 休学				1	0	0	1	2
	在籍				0	0	0	0	0
					4	4	3	4	15

令和3年度 工学研究科外国人留学生、社会人学生、研究生等在籍者数

(令和3年5月1日現在)

課程・専攻 分類	博士課程前期・修士課程						博士課程後期		工学研究科 合計
	機 械 工 学	電 気 工 学	電 子 情 報 工 学	化 学 シ ス テ ム 工 学	建 設 工 学	環 境 資 源 循 環 工 学	エ ネ ル ギ ー ・ 環 境 シ ス テ ム 工 学	シ ン テ シ ス ・ 情 報 制 御 工 学	
外国人留学生		1			1	4	1	1	8
外国人特別留学生									0
社会人学生					2		8	3	13
研 究 生									0
科目等履修生									0

2.3 学年暦

令和3年度 工学研究科学年暦・行事暦

年月日			事項	年月日			事項	
令和3年	4	1 木	入学式/学年開始・前期開始	令和3年	10	7 木	秋季大学院学位記授与式(博士)	
			新入生ガイダンス・学習指導			29 金	外国人留学生(国外志願者)入学願書締切	
			新入生履修登録開始(～4日25:00迄)			6 月	個別の入学資格審査対象者・外国人(国内志願者)の入学願書受付開始(～8日迄)	
		5 月	TA申込締切(12:00迄)					
		12 月	前期授業開始		12	7 火	工学研究科大学院進学説明会(3年次生対象)	
	6 14 月	推薦入学願書受付開始(～16日迄)	27 月			冬季休業開始		
	令和3年	7	3 土		推薦入学試験(工学研究科)	1	4 火	冬季休業終了
			12 月		個別の入学資格審査対象者・外国人(国内志願者)の入学願書受付開始(～14日迄)		5 水	後期授業再開
			20 火		推薦入学合格発表		17 月	春季入学試験願書受付開始(～20日迄)
			30 金		前期授業終了		24 月	後期授業終了
		8	4 水		夏季休業開始	2	1 火	大学院研究生出願受付開始(～4日迄)
			17 火		秋季入学試験願書受付開始(～19日迄)		9 水	飛び級願書受付開始(～10日迄)
9		1 水	秋季入学試験(工学研究科)	15 火	春季入学試験(工学研究科)			
		13 月	夏季休業終了	3	3 木	修士・博士学位合格者発表		
		14 火	後期開始			修士論文製本原稿提出受付開始(～7日迄)		
		17 金	修士・博士学位前期合格者発表			Web成績発表		
	20 月	後期授業開始	7 月	春季入学試験合格発表				
	22 水	秋季入学試験合格発表	17 木	春季大学院学位記授与式(博士)				
25 土	前期卒業式・学位記授与式(修士)	19 土	卒業式・学位記授与式(修士)					
令和4年	3	25 金	在学生履修登録書類配付・履修登録開始(～30日迄)	31 木	学年終了			

2.4 専門科目一覧

【機械工学専攻 博士課程前期】令和3年度入学生（21台）

主要科目			特修科目		
部門	授業科目	単位数	部門	授業科目	単位数
材料力学専修	材料力学特別研究	8	非 専 修	破壊力学	2
	材料力学特論Ⅰ	2		応用数学特論Ⅰ	2
	材料力学特論Ⅱ	2		応用数学特論Ⅱ	2
流体工学専修	流体工学特別研究	8		応用物理学特論Ⅰ	2
	流体力学特論	2		応用物理学特論Ⅱ	2
	流体機械特論	2		解析力学	2
熱工学専修	熱工学特別研究	8		応用力学特別講義	2
	熱工学特論	2		エネルギー工学特別講義	2
	熱機関特論	2		設計工学特別講義	2
機械設計・工作法 専 修	機械設計・工作法特別研究	8			
	機械設計特論	2			
	工作法特論	2			
機械力学・制御 専 修	機械力学・制御特別研究	8			
	機械力学特論	2			
	機械制御特論	2			

【電気工学専攻 博士課程前期】令和3年度入学生（21台）

主要科目			特修科目		
部門	授業科目	単位数	部門	授業科目	単位数
電気基礎専修	電気基礎特別研究	6	非 専 修	応用数学特論	2
	電気基礎特別実験	4		応用物理学特論	2
	電気基礎特論Ⅰ	4		電磁解析特論	2
	電気基礎特論Ⅱ	4		電気回路特論	2
パワーエレクトロニクス 専 修	パワーエレクトロニクス特別研究	6		放電プラズマ特論	2
	パワーエレクトロニクス特別実験	4		電気絶縁特論	2
	パワーエレクトロニクス特論Ⅰ	4		自動制御特論	2
	パワーエレクトロニクス特論Ⅱ	4		環境電気特論	2
電力工学専修	電力工学特別研究	6		パルス・デジタル応用特論	2
	電力工学特別実験	4		電気機器応用特論	2
	電力工学特論Ⅰ	4		信号解析特論	2
	電力工学特論Ⅱ	4		電気エネルギーシステム特論Ⅰ	2
応用電気工学 専 修	応用電気工学特別研究	6		電気エネルギーシステム特論Ⅱ	2
	応用電気工学特別実験	4			
	応用電気工学特論Ⅰ	4			
	応用電気工学特論Ⅱ	4			

【電子情報工学専攻 博士課程前期】令和3年度入学生 (21台)

主 要 科 目			共 通 科 目	
部 門	授 業 科 目	単位数	授 業 科 目	単位数
集積回路専修	集積回路特別研究Ⅰ	4	応用数学特論Ⅰ	2
	集積回路特別研究Ⅱ	6	応用数学特論Ⅱ	2
	半導体工学特論	2	電子情報工学特別講義Ⅰ	2
	集積回路工学特論	2	電子情報工学特別講義Ⅱ	2
	電子回路設計特論	2	技術マネジメント特論	2
	固体電子回路特論	2	システム開発特別演習	2
	応用物理学特論	2		
通信システム専修	通信システム特別研究Ⅰ	4	ITプロジェクト管理特論	2
	通信システム特別研究Ⅱ	6	システム開発特別実習	2
	移動通信システム特論	2	プロジェクト型開発特別演習・実習	4
	通信工学特論	2		
オプトエレクトロニクス専修	オプトエレクトロニクス特別研究Ⅰ	4		
	オプトエレクトロニクス特別研究Ⅱ	6		
	光エレクトロニクス特論Ⅰ	2		
	光エレクトロニクス特論Ⅱ	2		
計算機システム専修	計算機システム特別研究Ⅰ	4		
	計算機システム特別研究Ⅱ	6		
	計算機工学特論Ⅰ	2		
	計算機工学特論Ⅱ	2		
情報アーキテクチャ専修	情報アーキテクチャ特別研究Ⅰ	4		
	情報アーキテクチャ特別研究Ⅱ	6		
	ネットワークシステム特論	2		
	ロボティクス特論Ⅰ	2		
	ロボティクス特論Ⅱ	2		
知能工学専修	知能工学特別研究Ⅰ	4		
	知能工学特別研究Ⅱ	6		
	言語工学特論	2		
	情報論理学特論	2		
情報システム開発工学専修	情報システム開発工学特別研究Ⅰ	4		
	情報システム開発工学特別研究Ⅱ	6		
	システム・ソフトウェア工学特論	2		
	情報ネットワーク特論	2		
	情報セキュリティ特論	2		
メディア工学専修	メディア工学特別研究Ⅰ	4		
	メディア工学特別研究Ⅱ	6		
	音声情報処理特論	2		
	画像情報処理特論	2		

【化学システム工学専攻 博士課程前期】令和3年度入学生（21台）

主 要 科 目			特 修 科 目		
部 門	授 業 科 目	単位数	部 門	授 業 科 目	単位数
プロセスシステム工学専修	プロセスシステム工学特別研究	6	非 専 修	化学プロセス特論	2
	プロセスシステム工学特別実験	4		プロセス設計特論	2
	プロセスシステム工学特論	4		プロセス制御特論	2
複合材料専修	複合材料特別研究	6		バイオマス変換工学特論	2
	複合材料特別実験	4		エネルギー物質化学特論	2
	複合材料特論	4		高分子化学特論	2
界面プロセス工学専修	界面プロセス工学特別研究	6		輸送現象特論	2
	界面プロセス工学特別実験	4		界面プロセス工学特論	2
	物質移動工学特論	4		無機機能材料特論	2
移動現象工学専修	移動現象工学特別研究	6		触媒工学特論	2
	移動現象工学特別実験	4		流体工学特論	2
	移動現象工学特論	4		伝熱工学特論	2
応用触媒化学専修	応用触媒化学特別研究	6		環境工学特論	2
	応用触媒化学特別実験	4		環境物理学特論	2
	応用触媒化学特論	4		応用数学特論Ⅰ	2
化工流体工学専修	化工流体工学特別研究	6		応用数学特論Ⅱ	2
	化工流体工学特別実験	4		応用物理学特論Ⅰ	2
	化工流体工学特論	4		応用物理学特論Ⅱ	2
反応工学専修	反応工学特別研究	6		化学工学特論Ⅰ	1
	反応工学特別実験	4		化学工学特論Ⅱ	1
	反応工学特論	4		化学工学特論Ⅲ	1
化学安全工学専修	化学安全工学特別研究	6	化学工学特論Ⅳ	1	
	化学安全工学特別実験	4	英語論作文スキル特論Ⅰ	2	
	化学安全工学特論	4	英語論作文スキル特論Ⅱ	2	
工業化学・高分子専修	工業化学・高分子特別研究	6			
	工業化学・高分子特別実験	4			
	工業化学・高分子特論	4			
工業無機化学専修	工業無機化学特別研究	6			
	工業無機化学特別実験	4			
	工業無機化学特論	4			

【建設工学専攻 博士課程前期】令和3年度入学生（21名）

主要科目			特修科目		
部門	授業科目	単位数	部門	授業科目	単位数
建築学専修	建築学特別研究	6	非 専 修	弾塑性構造力学特論	2
	建築学特別実験・実習	4		合成構造耐震設計特論	2
社会デザイン 工学専修	社会デザイン工学特別研究	6		木質材料構造学特論	2
	社会デザイン工学特別実験・実習	4		橋梁学特論	2
				マトリックス構造解析特論	2
				材料力学史特論	2
				鋼構造弾塑性学特論	2
				鋼構造座屈特論	2
				地震工学特論	2
				応答制御構造特論	2
				建築構造デザイン特論	2
				構造計画特論	2
				コンクリートの材料科学特論	2
				コンクリート工学特論	2
				建設材料の耐久性特論	2
				複合建設材料工学特論	2
				流体シミュレーション特論	2
				環境水理学特論	2
				浄化機能特論	2
				応用生態工学特論	2
				地域・住宅地計画特論	2
			都市計画・まちづくり特論	2	
			都市デザイン特論	2	
			交通計画特論	2	
			地域計画・設計特論	2	
			景観学特論	2	
			建築熱環境計画特論	2	
			建築空気環境計画特論	2	
			建築光環境工学特論	2	
			建築音環境工学特論	2	
			道路舗装工学特論	2	
			地盤環境工学特論	2	
			地盤防災工学特論	2	
			地盤シミュレーション工学特論	2	
			建築意匠特論Ⅰ	2	
			建築意匠特論Ⅱ	2	
			都市史特論	2	
			建築史特論	2	
			建築設計計画特論	2	
			空間計画学特論	2	
			建築構造設計学特論	2	
			地球環境建築生産特論	2	
			建築デザイン演習Ⅰ	4	
			建築デザイン演習Ⅱ	4	
			建設設計実習Ⅰ	2	
			建設設計実習Ⅱ	2	
			建設設計実習Ⅲ	2	
			建設設計実習Ⅳ	2	

【資源循環・環境工学専攻 修士課程】令和3年度入学生（21名）

主 要 科 目			特 修 科 目	
部 門	授 業 科 目	単位数	授 業 科 目	単位数
資源循環工学専修	資源循環工学特別研究	8	耐久性制御工学特論	2
	資源循環工学特別実験・実習	4	材料特性特論	2
環境化学制御専修	環境化学制御特別研究	8	資源循環型経済システム特論	2
	環境化学制御特別実験・実習	4	廃棄物管理システム特論	2
環境生態制御専修	環境生態制御特別研究	8	グリーン物流計画特論	2
	環境生態制御特別実験・実習	4	汚染物質処理特論	2
地域環境専修	地域環境特別研究	8	環境化学装置特論	2
	地域環境特別実験・実習	4	環境化学特論	2
環境マネジメント専修	環境マネジメント特別研究	8	水質管理システム特論	2
	環境マネジメント特別実習	4	エネルギー変換工学特論	2
東アジア文化環境専修	東アジア文化環境特別研究	8	廃棄物資源循環工学特論	2
	東アジア文化環境特別実習	4	環境微生物工学特論	2
共 通 必 修 科 目			水圏生態学特論	2
授 業 科 目		単位数	土壌生態学特論	2
資源循環総合演習		6	環境アセスメント特論	2
実践的環境教育総合実習Ⅰ		2	環境調和型都市計画特論	2
共 通 選 択 科 目			国際環境計画特論	2
授 業 科 目		単位数	環境法特論	2
実践的環境教育総合実習Ⅱ		2	環境情報学特論	2
			コミュニケーションスキル特論	2
			環境データ解析特論	2
			環境行政学特論	2
			環境物理学特論	2
			中国文化環境特論	2
			韓国朝鮮文化環境特論	2
			環境監査特論Ⅰ	2
			環境監査特論Ⅱ	2
			英語論作文スキル特論Ⅰ	2
			英語論作文スキル特論Ⅱ	2

【エネルギー・環境システム工学専攻 博士課程後期】令和3年度入学生（21名）

研究指導科目			特修科目	
部門	授業科目	単位数	授業科目	単位数
熱エネルギー工学専修	熱エネルギー工学特別研究Ⅰ	2	応用エネルギー特論	2
	熱エネルギー工学特別研究Ⅱ	2	熱エネルギー移動現象特論	2
	熱エネルギー工学特別研究Ⅲ	2	電力システム工学特論A	2
	熱エネルギー工学特別研究Ⅳ	2	電力システム工学特論B	2
	熱エネルギー工学特別演習Ⅰ	2	誘電体物性工学特論	2
	熱エネルギー工学特別演習Ⅱ	2	都市排水処理工学特論	2
電気エネルギー工学専修	電気エネルギー工学特別研究Ⅰ	2	再生資源利用工学特論	2
	電気エネルギー工学特別研究Ⅱ	2	建築環境システム特論	2
	電気エネルギー工学特別研究Ⅲ	2	都市計画特論	2
	電気エネルギー工学特別研究Ⅳ	2	免震・制震設計特論	2
	電気エネルギー工学特別演習Ⅰ	2	地盤防災学特論	2
	電気エネルギー工学特別演習Ⅱ	2	建築計画特論	2
都市環境工学専修	都市環境工学特別研究Ⅰ	2	舗装・地盤環境工学特論	2
	都市環境工学特別研究Ⅱ	2	構造工学特論	2
	都市環境工学特別研究Ⅲ	2	橋梁工学特論	2
	都市環境工学特別研究Ⅳ	2	交通・都市システム特論	2
	都市環境工学特別演習Ⅰ	2	建築生産工学特論	2
	都市環境工学特別演習Ⅱ	2	耐震工学特論	2
環境材料工学専修	環境材料工学特別研究Ⅰ	2	景観デザイン特論	2
	環境材料工学特別研究Ⅱ	2	住環境デザイン特論	2
	環境材料工学特別研究Ⅲ	2	材料強度学特論	2
	環境材料工学特別研究Ⅳ	2	生体材料学特論	2
	環境材料工学特別演習Ⅰ	2	構造材料工学特論	2
	環境材料工学特別演習Ⅱ	2	高分子材料工学特論	2
環境プロセス工学専修	環境プロセス工学特別研究Ⅰ	2	材料強度解析特論	2
	環境プロセス工学特別研究Ⅱ	2	機械材料学特論	2
	環境プロセス工学特別研究Ⅲ	2	界面コロイド工学特論	2
	環境プロセス工学特別研究Ⅳ	2	環境装置工学特論	2
	環境プロセス工学特別演習Ⅰ	2	環境分離工学特論	2
	環境プロセス工学特別演習Ⅱ	2	環境適合化学プロセス特論	2
資源循環システム工学専修	資源循環システム工学特別研究Ⅰ	2	生物材料工学特論	2
	資源循環システム工学特別研究Ⅱ	2	環境工学特論	2
	資源循環システム工学特別研究Ⅲ	2	環境触媒特論	2
	資源循環システム工学特別研究Ⅳ	2	廃棄物処理工学特論	2
	資源循環システム工学特別演習Ⅰ	2	廃棄物処分システム特論	2
	資源循環システム工学特別演習Ⅱ	2	建設廃棄物処理特論	2
部門共通	インターンシップ	2		

【情報・制御システム工学専攻 博士課程後期】令和3年度入学生（21台）

研究指導科目			特修科目	
部門	授業科目	単位数	授業科目	単位数
情報処理 工学専修	情報処理工学特別研究Ⅰ	2	言語工学特論A	2
	情報処理工学特別研究Ⅱ	2	言語工学特論B	2
	情報処理工学特別研究Ⅲ	2	知能処理特論A	2
	情報処理工学特別研究Ⅳ	2	知能処理特論B	2
	情報処理工学特別演習Ⅰ	2	知能処理特論C	2
	情報処理工学特別演習Ⅱ	2	情報処理工学特論A	2
				情報処理工学特論B
情報伝送 工学専修	情報伝送工学特別研究Ⅰ	2	情報処理工学特論C	2
	情報伝送工学特別研究Ⅱ	2	伝送素子特論	2
	情報伝送工学特別研究Ⅲ	2	情報伝送工学特論A	2
	情報伝送工学特別研究Ⅳ	2	情報伝送工学特論B	2
	情報伝送工学特別演習Ⅰ	2	情報伝送工学特論C	2
	情報伝送工学特別演習Ⅱ	2	情報伝送工学特論D	2
				パワーエレクトロニクス特論A
システム制御 工学専修	システム制御工学特別研究Ⅰ	2	パワーエレクトロニクス特論B	2
	システム制御工学特別研究Ⅱ	2	機械システム制御特論A	2
	システム制御工学特別研究Ⅲ	2	機械システム制御特論B	2
	システム制御工学特別研究Ⅳ	2	機械システム制御特論C	2
	システム制御工学特別演習Ⅰ	2	機能デバイス工学特論A	2
	システム制御工学特別演習Ⅱ	2	機能デバイス工学特論B	2
				機能デバイス工学特論C
機能デバイス 工学専修	機能デバイス工学特別研究Ⅰ	2	機能デバイス工学特論D	2
	機能デバイス工学特別研究Ⅱ	2	デバイス材料工学特論	2
	機能デバイス工学特別研究Ⅲ	2		
	機能デバイス工学特別研究Ⅳ	2		
	機能デバイス工学特別演習Ⅰ	2		
	機能デバイス工学特別演習Ⅱ	2		
部門共通	インターンシップ	2		

【博士課程後期における学際プログラム】 令和3年度入学生（21台）

部門	研究指導科目		特 修 科 目	
	授 業 科 目	単位数	授 業 科 目	単位数
アグリシステム工学プログラム	バイオマス利用工学特別研究Ⅰ	2	発酵工学特論	2
	バイオマス利用工学特別研究Ⅱ	2	環境プロセス工学特論	2
	バイオマス利用工学特別研究Ⅲ	2	バイオマテリアル特論	2
	バイオマス利用工学特別研究Ⅳ	2	アグリプロセス特論	2
	バイオマス利用工学特別演習Ⅰ	2	スマートアグリ特論	2
	バイオマス利用工学特別演習Ⅱ	2	アグリビジネス特論	2
	アグリプロセス工学特別研究Ⅰ	2		
	アグリプロセス工学特別研究Ⅱ	2		
	アグリプロセス工学特別研究Ⅲ	2		
	アグリプロセス工学特別研究Ⅳ	2		
	アグリプロセス工学特別演習Ⅰ	2		
	アグリプロセス工学特別演習Ⅱ	2		
	スマートアグリ特別研究Ⅰ	2		
	スマートアグリ特別研究Ⅱ	2		
	スマートアグリ特別研究Ⅲ	2		
	スマートアグリ特別研究Ⅳ	2		
スマートアグリ特別演習Ⅰ	2			
スマートアグリ特別演習Ⅱ	2			
都市建設工学プログラム	建築耐震工学特別研究Ⅰ	2	建築耐震性能評価特論	2
	建築耐震工学特別研究Ⅱ	2	道路地盤保全システム特論	2
	建築耐震工学特別研究Ⅲ	2	建築免震・制震性能評価特論	2
	建築耐震工学特別研究Ⅳ	2	都市基盤保全システム特論	2
	建築耐震工学特別演習Ⅰ	2	都市交通政策特論	2
	建築耐震工学特別演習Ⅱ	2	都市環境情報システム特論	2
	道路地盤保全システム工学特別研究Ⅰ	2		
	道路地盤保全システム工学特別研究Ⅱ	2		
	道路地盤保全システム工学特別研究Ⅲ	2		
	道路地盤保全システム工学特別研究Ⅳ	2		
	道路地盤保全システム工学特別演習Ⅰ	2		
	道路地盤保全システム工学特別演習Ⅱ	2		
	建築免震・制震設計特別研究Ⅰ	2		
	建築免震・制震設計特別研究Ⅱ	2		
	建築免震・制震設計特別研究Ⅲ	2		
	建築免震・制震設計特別研究Ⅳ	2		
	建築免震・制震設計特別演習Ⅰ	2		
	建築免震・制震設計特別演習Ⅱ	2		
	維持管理システム工学特別研究Ⅰ	2		
	維持管理システム工学特別研究Ⅱ	2		
維持管理システム工学特別研究Ⅲ	2			
維持管理システム工学特別研究Ⅳ	2			
維持管理システム工学特別演習Ⅰ	2			
維持管理システム工学特別演習Ⅱ	2			
共通科目				
授業科目				単位数
インターンシップ				2
公共政策学特論				2
経済マネジメント特論				2
防災通信特論				2

2.5 修士論文一覧と博士論文一覧、学生が受賞した学術賞

2.5.1 修士論文

令和3年度 修士論文論題及び審査委員一覧

専攻	主査	副査	論 題
機 械 工 学 (8名)	岩村	宮田	スタッククレーンの高精度動力学モデルと動作軌道最適化による残留振動抑制手法の検討
	高尾	林	低GWP冷媒の液相音速の測定
	遠藤	安東	ねじり疲労強度に及ぼす微小欠陥の影響および連続水素チャージ回転曲げ疲労試験機の開発
	遠藤	山辺	循環型連続水素チャージ下の疲労き裂進展特性及び高圧水素ガス環境との整合性
	遠藤	稲毛	ニレジスト球状黒鉛鑄鉄の疲労特性に及ぼす微小欠陥の影響
	岩村	柳瀬	粘弾性体を含むマルチボディシステムの高速かつ安定な動力学計算法とそのソフトロボティクスへの応用
	岩村	柳瀬	マルチボディダイナミクスと機械学習を用いた自動車乗員身体制御モデルの検討
	高尾	稲毛	水平微細円形流路内を流れる冷媒の気液二相摩擦圧力損失特性
電 気 工 学 (7名)	西田	孟	改良型スパッタ法によるPbTiO ₃ ナノ結晶育成における加熱と表面状態の影響
	花井	篠原	各種センサを用いた雷インパルス放電の衝撃力測定および電界測定の基礎研究
	花井	篠原	紫外線硬化エポキシ樹脂の絶縁破壊特性に及ぼすサブミリメートル空気気泡付加の影響
	孟	西田	層状媒質の比誘電率分布特定における人工知能利用に関する研究
	根葉	小浜	三相PWMデュアル電流形インバータ誘導機システムに関する研究
	孟	江田	実数型直交変換の符号を用いた画像ハッシュ関数に関する研究
	花井	篠原	純水の体積抵抗率に及ぼす電極材質と雰囲気ガスおよび非イオン界面活性剤の影響
電 子 情 報 工 学 (7名)	太郎丸	大橋	ブルームフィルタを用いたキャッシュポリューション攻撃の検知技術の研究
	吉村	中西	単一化文法を用いた日本語文の構文解析に関する研究
	大橋	太郎丸	遠賀川沿い樋門の遠隔制御に向けたRESTfulな水位計測システムの開発とその運用
	文仙	大橋	IoTデータのキャッシュ制御技術の研究
	文仙	鈴木	強度輸送方程式法によるホログラフィックメモリ再生光検出の高性能化に関する研究

専攻	主査	副査	論 題
工学(7名) 電子情報	文仙	鈴木	トランスマッションマトリクスを用いた散乱フォーカシング及び散乱イメージングに関する研究
	名倉	佐藤	電圧降下エラー注入を用いた情報隠蔽手法
化学システム工学(24名)	三島	新戸	液体二酸化炭素抽出法による植物からの生理活性成分の抽出
	八尾	松隈	ポリプロピレンの薄膜物性の成形履歴依存性と動的せん断による物性回復の検討
	三島	野田	超臨界二酸化炭素を用いた高分子マイクロカプセルの生成
	松隈	鈴川	側面から流入するガスのハニカム内流動均一化のための実験および流体解析
	八尾	松隈	せん断変形を用いたポリエチレンの物性低下・物性回復と内部構造変化の関係
	久保田	加藤(貴)	固体高分子形燃料電池の非白金カソード触媒としての炭素担持ジルコニア触媒の研究
	八尾	松隈	ブロックPPを用いた射出成形平板における流動部位と再成形時の物性依存性検討
	八尾	松隈	熔融樹脂溜まり付き二軸押出機が高密度ポリエチレンに及ぼす力学物性と内部構造の検討
	新戸	重松	酵母への粒子状プラスチックの付着・取込・毒性に及ぼす粒子物性および曝露環境の影響
	三島	新戸	免疫抑制剤のマイクロコーティング
	加藤(勝)	重松	電子部品材料の発熱危険性評価
	加藤(貴)	三島	硝化菌の亜硝酸分解特性に及ぼす多孔質無機担体の影響
	三島	松隈	高機能性マイクロカプセルの調製
	重松	加藤(勝)	精油と保湿剤の混合による引火点降下現象
	新戸	重松	担体固定化部位をもつ糖鎖高分子の作製およびバイオセパレーションへの応用
	重松	新戸	バイオエタノール製造におけるマオウの発酵促進効果の追跡
	加藤(勝)	重松	硝酸エステル類の安定度試験に関する研究
八尾	加藤(貴)	剪断応力緩和機構によるポリプロピレンの延性回復	

専攻	主査	副査	論 題
化学システム工学 (24名)	八尾	松隈	側鎖結晶性ブロック共重合体を用いたポリエチレンテレフタレートの機能化
	野田	鈴木	アラームの発報時間差を考慮したプラント運転データからの連鎖アラーム抽出法
	八尾	加藤(貴)	シアノアクリレート系接着剤による側鎖結晶性ブロック共重合体を用いたシリコーンの接着
	新戸	重松	バイオセパレーション材料としての応用を目指した酵母表面の糖鎖の生体分子結合評価
	三島	野田	気液界面を用いた薬剤のナノカプセル化
	加藤(貴)	久保田	CO ₂ の電気化学的還元に向けたバイオマス原料由来の成形炭素電極の開発
建設工学 (13名)	辰巳	柴田	通学路交通安全プログラムの実態とPDCAサイクルに関する研究
	柴田	辰巳	全国市区町村における道路維持管理の現状と道路利用者の活用に関する研究
	佐藤(研)	村上	竹林の諸特性と豪雨による斜面崩壊の因果関係に関する研究
	佐藤(研)	村上	戻りコンクリート廃材の土木資材への有効利用に関する研究
	佐藤(研)	村上	ISOカラム通水試験の適用法に関する研究 ～実環境における汚染物質溶出挙動モデルへの展開～
	太記	池添	柳川の掘割に関する研究 寺社空間における掘割の石垣に着目して
	佐藤(研)	村上	有機質土地盤における住宅基礎の改良に用いる新しい固化材開発に関する研究
	木村	堺	段抜き開孔鋼板と普通ボルトを用いる鋼構造支圧接合の力学的特性とその応用に関する研究
	吉澤	高山	大型物流倉庫における耐震性能評価に関する研究 —耐震構造・制振構造・免震構造—
	池添	趙	20年経過した良好計画住宅地における街並みの維持管理と住宅景観特性に関する研究—八幡東区高見三条住宅地を事例として—
	高山	吉澤	パルス性地震動による建物の基本応答特性と免震建物の擁壁衝突時における応答評価に関する研究
	太記	宮崎	重要伝統的建造物群保存地区の変容に関する研究 秋月を事例として
柴田	辰巳	防災と賑わいの拠点化を考慮した庁舎移転計画に関する考察 —大分県津久見市を事例として—	

専攻	主査	副査	論 題
資源循環・環境工学（8名）	添田	櫛原	濃度の異なる亜硝酸リチウムを用いたポリマーセメントモルタルの腐食抑制効果に関する研究
	田中	鈴木	最終処分場における焼却残渣の生態学的安定化促進手法に関する研究～細菌の生残および生育に必要な焼却残渣中の有機物量～
	柳橋	為田	貯水槽水道の災害時の活用および環境調和型の将来像に関する研究
	添田	櫛原	自治体職員自らによるコンクリート構造物の補修技術の確立に関する研究
	田中	鈴木	福岡市における戸別収集の効率的評価と持続可能性に関する研究
	添田	櫛原	含水状態を考慮したコンクリートの鋼材腐食予測に関する基礎的研究
	柳橋	武下	生活空間における大気中微小粒子状物質の実態に関する研究
	田中	鈴木	浸出水の生物処理への廃棄物炭の適用効果とその実用性に関する研究

2.5.2 博士論文

令和3年度 博士論文論題及び審査委員一覧

区分	専攻	主査	副査	論 題
課程博士	エネルギー・環境システム工学専攻	添田	村上	コンクリートの透気性を考慮した実構造物の劣化進展予測法に関する研究
			濱田 (九州大学)	
		添田	佐藤(研)	最終処分場の浸出水処理により生成する副生塩の次亜塩素酸ソーダ利用に関する研究
			島岡 (九州大学)	
	情報・制御システム工学専攻	末次	柳瀬	パネルレベルパッケージング用仮固定材料と封止材料に関する研究
			池田 (鹿児島大学)	
三島		末次	超臨界流体を用いた機能性マイクロ・ナノカプセルの製造	
	野田			
	岩井 (九州大学)			
論文博士		佐藤(研)	渡辺(亮)	バイオアッセイを利用した最終処分場の適正管理手法に関する研究
			為田	
			石橋 (愛媛大学)	

2.5.3 学生が受賞した学術賞

令和3年度 受賞一覧

専攻 (課程)	受賞時 の年次	賞 名	授与団体	年月
電気工学専攻 【博士課程前期】	1年	第52回電気電子絶縁材料システムシンポジウムMVPセッション 優秀発表賞	電気学会誘電・絶縁材料技術委員会	令和3年9月
	1年	令和3年度 優秀論文発表賞B賞	電気学会九州支部	令和3年10月
	1年	令和3年度 優秀論文発表賞B賞	電気学会九州支部	令和3年10月
	1年	2021 IEEE DEIS Japan Chapter Best Paper Presentation Award in IEEE DEIS related Domestic Conference	IEEE DEIS Japan Chapter	令和4年3月
電子情報 工学専攻 【博士課程前期】	2年	Student Presentation Award	IEICE国際会議 ICTEC2021	令和3年12月
	1年	IEEE LifeTech 2022 Outstanding Student Paper Awards for Oral Presentation	IEEE LifeTech 2022 国際会議	令和4年3月
化学システム 工学専攻 【博士課程前期】	2年	The Excellent Presentation Award	火薬学会	令和3年11月
	2年	学生講演賞	安全工学会	令和3年12月
建設工学専攻 【博士課程前期】	1年	第56回地盤工学研究発表会優 秀論文発表者	地盤工学会	令和3年8月
資源循環・環 境工学専攻 【修士課程】	2年	優秀講演賞	土木学会西部支部	令和4年3月
	2年	優秀ポスター賞	廃棄物資源循環学 会九州支部	令和3年5月
情報・制御 システム 工学専攻 【博士課程後期】	3年	英語セッション奨励賞	電子情報通信学会 ネットワークシステ ム研究会	令和3年10月

第3章 研究活動

3.1 学術論文と学会発表、学術賞

令和3年度 論文等研究成果の発表状況

学科・グループ	論文	講演	著書	その他
機 械 工	22	63	1	6
電 気 工	11	49	1	1
電 子 情 報 工	21	65	1	1
化学システム工	16	40	0	5
社会デザイン工	50	114	4	21
建 築	23	39	2	5
資源循環・環境	3	41	6	14
図 学	0	0	0	0
計	146	411	15	53

令和3年度 学術賞受賞実績

該当なし

3.2 科学研究費採択課題一覧

令和3年度

科学研究費（独立行政法人日本学術振興会 所管）

制 度	研究種目	学科・グループ	課 題
補助金分	基盤研究（B）	電子情報工学科	情報指向無線ネットワークを利用した災害時情報共有システム的设计
		化学システム工学科	硝酸エステルの安定度評価方法
			ナノ・リポソームの連続調製を目的としたCO ₂ マルチ相変化による向流接触法の構築
			微生物に対する微小プラスチックと化学物質の複合毒性発現のメカニズム究明および制御
基金分	基盤研究（C）	機械工学科	耐水素脆化特性に優れた高強度材料開発のための指導原理構築
			極低流速域における相変化熱伝達特性の解明と自励振動熱輸送デバイスへの応用
			次世代冷媒の状態方程式最適化に資する高精度液相音速測定および密度との同時計測
		電気工学科	多重内部反射赤外分光その場計測によるアモルファス炭素膜のスパッタ成膜機構の解明
		電子情報工学科	強度輸送方程式法による空間直交振幅変調信号光の非干渉検出に関する研究
			LSIの動的電力制御技術を応用した電力解析攻撃の対策
			道路走行映像の自由視点再現技術を活用した自動運転における運転者の挙動分析
			階層化による冗長ヘッダ情報の削減と新フレームフォーマットの開発
			Computational Ethology のための複数個体行動追跡手法の開発
		化学システム工学科	多種多様な材質の担体に適用可能な糖鎖界面形成技術の開発とバイオ分離精製への応用
			プラント事故防止のためのプラント運転データからの有害アラーム抽出技術の開発
			Development of supercritical carbon dioxide mediated microparticles of juvenile hormone analogues (JHAs) for the elimination of mosquito-borne diseases

制 度	研究種目	学科・グループ	課 題
基 金 分	基盤研究 (C)	社 会 デ ザ イ ン 工 学 科	再振動締固め法を用いた高耐久コンクリートの作製技術の構築
			ISOカラム試験の適用法に関する研究－実環境における汚染物質挙動モデルへの展開－
			災害で発生した流木材の高付加価値な用材利用技術の確立
			情報バイアスを有する地盤情報群を用いる層区分AI推定と精度評価
			ユーザー感性に基づいた、わかりやすいバス路線図のデザインガイドライン構築
			シークエンス景観に着目した地下空間の迷いやすさの改善と魅力向上に関する研究
		建 築 学 科	設備騒音の低周波音遮蔽のための空気壁の提案
			別棟増築型小学校における現存校舎のマネジメント評価と長期更新手法に関する研究
	研究活動スタート支援	電 子 情 報 工 学 科	バーリングプレス加工した機械的ずれ止めによる鋼とコンクリートの接合設計法
			空間検索性に着目した3D Isovist Graphによる空間評価手法の開発
	若 手 研 究	機 械 工 学 科	トマト果実の「収穫しやすさ」の定義及び自動収穫システムへの適用
			水素中に含まれるガス不純物による鋼中への水素侵入の抑制効果の定量的評価
		電 気 工 学 科	耐水素金属の高強度化に向けた、純ニッケルの水素助長粒界破壊メカニズム解明
			協調ロボットの安全性、作業性向上のための近接覚・触覚センサモジュールの開発
			窒素ファインバブルと高分子の付加による純水の絶縁性向上に関する研究
気中放電の先端電界と圧力が絶縁物貫通に与える影響の解明			
周期運動に対するパワーアシスト制御：ヒトを含めた人間-機械システム全体の最適化			
入射波の事前情報が不要な三次元逆散乱解析法の開発			

制 度	研究種目	学科・グループ	課 題
基金分	若手研究	電子情報工学科	コンテンツ指向型センサネットワークにおけるセキュアキャッシング手法の研究開発
			スキャン設計の再利用による低コストなトランジスタ劣化量診断
		化学システム工学科	超小型衛星での推進剤利用に向けた高エネルギーイオン液体の安定性評価フレーム構築
		建築学科	鋼構造オフィスビル床・壁の木質化へ向けた接合部開発に関する研究
地域主体のまちづくりにおける創発的福祉モデルの持続性に関する研究			

3.3 産学連携活動の外部資金（受託研究・研究助成）

令和3年度

受託研究費の学科・グループ別合計金額

学科・グループ	金額
機械工学科	4,626,400円
電気工学科	23,190,401円
電子情報工学科	181,429,678円
化学システム工学科	190,416,000円
社会デザイン工学科	41,768,601円
建築学科	1,730,000円
資源循環・環境グループ	32,412,600円
工学部（54件）	475,573,680円

研究助成寄附金の学科・グループ別合計金額

学科・グループ	金額
機械工学科	4,550,000円
電気工学科	1,800,000円
電子情報工学科	4,340,000円
化学システム工学科	1,500,000円
社会デザイン工学科	11,642,000円
建築学科	5,443,800円
資源循環・環境グループ	1,000,000円
工学部（45件）	30,275,800円

第4章 入学・広報活動

4.1 入試制度

工学部における令和4年度入試（令和3年度実施）においては、一般選抜後期日程の募集人員が変更された。他は前年度と同様である。

学 科	入学定員	令和4年度入試（令和3年度実施）における募集人員												
		学校推薦型・ 統合型選抜			一般選抜						特別選抜			
		学校推薦型 (A方式)	総合型 (工学部)	統合型 (アスリート特別)	系統別日程	前期日程	後期日程	前期日程・共通テスト併用型	共通 テスト 利用型		社会人	帰国生徒	編・転・学士	学部留学生
I期	II期													
機 械 工 学 科	110	14	2	3 程 度	10	55	3	8	4	3	若干人	若 干 人	若 干 人	若 干 人
電 気 工 学 科	110	14	3		10	55	3	8	4	3				
電 子 情 報 工 学 科	150	19	2		14	75	4	13	5	4				
化学システム工学科	110	12	3		10	55	3	8	4	3				
社会デザイン工学科	110	14	2		10	50	3	13	4	3	若干人			
建 築 学 科	110	14	2		10	50	3	13	4	3				

4.2 入試状況

令和4年度入試の工学部における実施状況は以下の通りである。なお、いずれも合格者に追加合格者は含まない。

令和4年度入試	系統別日程					前期日程				
学 科	募集人員	受験者	合格者	競争率	合格最低点/400	募集人員	受験者	合格者	競争率	合格最低点/300
機 械 工 学 科	10	149	56	2.7	213	55	646	287	2.3	165
電 気 工 学 科	10	209	70	3.0	213	55	617	227	2.7	164
電子情報工学科	14	231	46	5.0	245	75	1215	412	2.9	191
化学システム工学科	10	124	48	2.6	200	55	425	232	1.8	150
社会デザイン工学科	10	145	42	3.5	207	50	442	157	2.8	157
建 築 学 科	10	122	21	5.8	233	50	729	248	2.9	192

令和4年度入試	後期日程				前期日程・共通テスト併用型			
学 科	募集人員	受験者	合格者	競争率	募集人員	受験者	合格者	競争率
機 械 工 学 科	3	16	9	1.8	8	336	149	2.3
電 気 工 学 科	3	16	5	3.2	8	358	154	2.3
電子情報工学科	4	28	8	3.5	13	643	194	3.3
化学システム工学科	3	18	8	2.3	8	227	171	1.3
社会デザイン工学科	3	31	20	1.6	13	272	118	2.3
建 築 学 科	3	30	6	5.0	13	370	110	3.4

令和4年度入試	共通テスト利用型							
	I 期				II 期			
学 科	募集人員	受験者	合格者	競争率	募集人員	受験者	合格者	競争率
機 械 工 学 科	4	129	71	1.8	3	42	16	2.6
電 気 工 学 科	4	85	47	1.8	3	37	20	1.9
電子情報工学科	5	231	93	2.5	4	101	33	3.1
化学システム工学科	4	95	63	1.5	3	24	11	2.2
社会デザイン工学科	4	87	40	2.2	3	26	13	2.0
建 築 学 科	4	153	68	2.3	3	45	17	2.6

令和4年度入試	学校推薦型・総合型選抜						特別選抜							
	学校推薦型 (A方式)		総合型 (工学部)		総合型 (アスリート特別)		社会人		帰国生徒		編・転・ 学士		学部 留学生	
学 科	受験者	合格者	受験者	合格者	受験者	合格者	受験者	合格者	受験者	合格者	受験者	合格者	受験者	合格者
機 械 工 学 科	12	8	3	3	0	0	1	0	0	0	1	0	2	2
電 気 工 学 科	27	17	2	2	0	0	/		0	0	0	0	0	0
電子情報工学科	37	21	3	1	1	1	/		0	0	1	0	2	2
化学システム工学科	9	3	5	5	1	1	/		0	0	0	0	1	1
社会デザイン工学科	26	17	6	6	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1
建 築 学 科	48	22	10	5	0	0	/		0	0	0	0	0	0

4.3 模擬講義

令和3年度に工学部で行った模擬講義は以下の通りである。学科略称を以下に示す。

機械工学科 (TM) 電気工学科 (TE) 電子情報工学科 (TL)

化学システム工学科 (TK) 社会デザイン工学科 (TC) 建築学科 (TA)

日付	高校名	場所	参加学年	参加者	タイトル・内容	担当者(学科)
6/23	福岡西陵	現地	高校2年生	36	電気・電子工学、情報工学と技術者の仕事	太郎丸 眞(TL)
5/20	東京国際ビジネスカレッジ福岡校	現地	高校2年生	10	身近な化学	三島健司(TK)
7/8	新南陽	オンライン	高校3年生	30	センサネットワークで身の回りの状況を取得する	大橋正良(TL)
7/5	明光学園	現地	高校1・2年生、教員	55	電力機器の耐雷保護と放電プラズマの応用	高村紀充(TE)
7/6	片江中学校	現地	中学生3年生	186	砂糖も爆発する？爆発現象と事故事例	加藤勝美(TK)
7/19	福岡工業大学附属城東	現地	高校2年生、教員	67	高校生のための半導体入門	名倉 徹(TL)
7/17	中村学園三陽	現地	高校2年生	15	空気砲で君なら未来の地球をどう変える？	赤木富士雄(TM)
7/27	香椎	現地	高校1・2年生	19	環境にやさしい技術・施策の日欧比較	鈴木慎也(TC)
7/29	嘉穂	学内	高校2年生	152	クルマとコンピュータ	中西恒夫(TL)
11/11	太宰府	現地	高校2年生	11	木材を伐って使ってエコライフ	渡辺 浩(TC)
10/14	佐賀清和	オンライン	高校1・2年生	21	空間のリサイクル	池添昌幸(TA)
10/14	春日	現地	高校2年生	17	地震から人と家を守る	田中照久(TA)
10/20	光陵	学内	高校2年生	27	人工知能や拡張現実とはICTでできている	鶴田直之(TL)
12/14	佐賀東	学内	高校1年生	80	景観デザインー快適な都市のつくり方ー	柴田 久(TC)
12/15	龍谷	学内	高校1・2年生	70	流体談話ーその楽しさと悩ましさ	稲毛真一(TM)
3/2	サビエル	オンライン	高校1・2年生	11	大気中の二酸化炭素濃度はなぜ低下しないのか？	吉原直記(TK)
3/15	長崎南山	オンライン	高校1・2年生	53	福岡大学と社会デザイン工学科の紹介	村上 哲(TC)

第5章 教務・図書・学生支援

5.1 学生在籍状況

令和3年度工学部学籍一覧表

令和3年5月6日現在

学科	年次 学年 入学年	1年 2021	2年 2020	3年 2019	4年 2018	5年 2017	6年 2016	7年 2015	8年 2014	9年 2013	合計
機 械 工	女子	3	8	9	5						25
	休学 在籍	113	102	127	99	13	8	1			463
電 気 工	女子	1	1	3	2						7
	休学 在籍	109	105	106	94	15	5	5			439
電 子 情 報 工	女子	11	8	13	12	1					45
	休学 在籍	146	141	141	127	26	6	3			590
化学システム工	女子	23	34	36	23						116
	休学 在籍	96	107	122	97	3	2				427
社会デザイン工	女子	23	16	13	17						69
	休学 在籍	124	108	108	104	6	3	1			454
建 築	女子	36	39	40	30	1	2				148
	休学 在籍	106	107	116	107	6	6				448
工 学 部	女子	97	106	114	89	2	2				410
	休学 在籍	694	670	720	628	69	30	10			2,821

5.2 学年暦

年月日		事項	年月日		事項		
令和3年	4	1 木	入学式	令和3年	5 金	七隈祭（～11月8日）	
		2 金	新入生履修登録ガイダンス		8 月	アスリート特別選抜 二次	
		3 土	新入生履修登録開始		11 20 土	学校推薦型選抜 （指定校・附属校）（～21日）	
		12 月	前期授業開始		21 日	帰国子女、社会人選抜	
	5	21 金	創立記念日		28 日	学校推薦型選抜（A方式）	
		30 日	父母懇談会（熊本） ※中止		12 27 月	冬季休業開始	
	6	6 日	父母懇談会（松山） ※中止		令和4年	4 火	冬季休業終了
		12 土	特待生表彰式			5 水	後期授業再開
		13 日	父母懇談会（広島） ※中止	1 15 土		大学入学共通テスト（～16日）	
		19 土	父母懇談会（本学） ※中止	17 月		後期授業終了	
		27 日	父母懇談会（宮崎） ※中止	18 火		後期定期試験開始	
	7	3 土	父母懇談会（佐賀） ※中止	28 金		後期定期試験終了（予備日）	
		4 日	父母懇談会（東京） ※中止	2		2 水	一般選抜系統別日程
		11 日	父母懇談会（那覇） ※中止			3 木	一般選抜前期日程 （～6日・11日）
		30 金	前期授業終了		8 火	学部留学生選抜	
	8	2 月	前期集中講義（～6日）		14 月	成績発表（4年次生等）	
		4 水	夏季休業開始		22 火	第一次学士合格者発表	
		8 日	オープンキャンパス	24 金	追・再試験開始		
		17 火	教育調整期間（～30日）	3	1 火	追・再試験終了	
	9	6 月	前期成績発表 後期集中講義（～10日）		2 水	編・転・学士入試	
		8 水	後期履修登録変更（～10日）		5 土	一般選抜後期日程	
		13 月	夏季休業終了		11 金	第二次学士合格者発表	
		14 火	後期開始 前期学士合格者発表		15 火	1～3年次生成績発表	
		18 土	総合型選抜（工学部）一次		19 土	卒業式	
		20 月	後期授業開始		22 火	在学生履修登録（～29日）	
		25 土	前期卒業式		31 木	学年終了	
		10	16 土	総合型選抜（工学部）二次			
	26 火		アスリート特別選抜 一次				

5.3 専門科目一覧

【機械工学科】令和3年度入学生（21台）

【共通教育科目（省略）】

△印は選択必修

科目	年次	第1年次		第2年次		第3年次		第4年次								
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位							
工学 共通 科目	必修 科目	微分積分 I	2	物理学 C 物理学実験	2 2											
		微分積分 II	2													
		行列と行列式 I	2													
		行列と行列式 II	2													
		力化学学実	2													
小計		14		4												
工学 共通 科目	選択 科目	物理学 B	2	統計 III	2	数理統計 I	2									
		物理学 A	2	微分積分 IV	2	数理統計 II	2									
		物理学 B	2	微分積分	2	物理学 D	2									
		物理学 I	2	関数	2	基礎防災学	2									
		小計		8		8				8						
計		22		12		8										
専門 教育 科目	必修 科目	工業力学 I	2	材料工学 I 流体力学 II 工業熱力学 I 工業熱力学 II 機械加工法 I 機械制御工学 I 金属材料学 I 機械力学 II 機械工学実習	4 2 2 2 2 2 1 2 2 2 1 2	材料試験 I 機械要素設計 I 機械力学・制御実験	1 2 1	流体工学実験 I 熱工学実験 I	1 1							
		技術者リテラシー I	1													
		小計								3		24		4		2
		選択 科目	機械工作学							2	機械制御工学 II	2	固体力学 I	2	卒業論文	6
			機械構造学							2	△機械工学設計演習 A	1	固体力学 II	2		
			情報処理入門							2	計測工学	2	ターボ機械	2		
											材料力学 II	4	工作機械	2		
											技術者リテラシー II	1	流体力学 I	2		
													流体力学 II	2		
													伝熱工学 I	2		
													伝熱工学 II	2		
													ヒートポンプ・空調工学	2		
													機械要素設計 II	2		
													機械制御工学 III	2		
													ロボット工学	2		
					機械力学 II	2										
					△機械工学設計演習 B	1										
				△機械工学設計演習 C	1											
				△機械工学設計演習 D	1											
				△機械工学設計演習 E	1											
				工業経営	2											
				数値解析	2											
				熱エネルギー変換工学	2											
				トライボロジー	2											
				機械材料学	2											
				複合材料学	2											
				機械情報処理	2											
				電気工学通論	2											
				電子工学通論	2											
				化学工学通論	2											
				技術者リテラシー III	1											
				流体機械	2											
				総合工業	2											
小計		6		10		55		6								
計		9		34		59		8								

注) △印の機械工学設計演習は5科目中、3科目以上を修得すること。

【電気工学科】令和3年度入学生（21台）

【共通教育科目（省略）】

△印は選択必修

科目	年次	第1年次		第2年次		第3年次		第4年次	
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
工学 共通科目	必修科目	微分積分 I	2						
		微分積分 II	2						
		行列と行列式 I	2						
		行列と行列式 II	2						
		力学 A	2						
		物理学実験 B	2						
	物理学実験	2							
	小計		14						
	選択科目	化学 A	2	統計	2	基礎防災学	2		
		化学 B	2	化学実験	2				
図学 I		2	物理学	2					
			微積分	2					
			微積分	2					
小計		6		16		2			
計		20		16		2			
専門 教育	必修科目	電気磁気学 I	2	電気磁気学 III	2	発変電工学 I	2	卒業論文	3
		電気磁気学 II	2	電気磁気学 IV	2	発変電工学 II	2		
		電気回路 I	2	電気回路 III	2	制御工学 I	2		
		電気回路 II	2	電気回路 IV	2	制御工学 II	2		
		電気基礎工学 I	1	電気計測 I	2	電力伝送工学 I	2		
		電気入門 I	1	電気計測 II	2	電力伝送工学 II	2		
		電気入門 II	1	電気物性論 I	2	電気材料 I	2		
				電気物性論 II	2	電気材料 II	2		
				電気機器 I	2	パワーエレクトロニクス I	2		
				電気機器 II	2	パワーエレクトロニクス II	2		
		電気基礎実験 I	2	デジタル制御工学	2				
		電気基礎実験 II	2						
小計		11		24		22		3	
選択科目	コンピュータ基礎 I	2	情報処理 I	2	高電圧工学	2	電力システム工学	2	
	コンピュータ基礎 II	2	情報処理 II	2	照明電熱工学	2	システム工学	2	
			電子回路 I	2	通信工学	2	電気機器設計学	2	
			電子回路 II	2	数値解析	2	電気設計製図	2	
					プログラム技法	2	○電気工学実験 III	2	
					電子工学 I	2	技術者倫理・安全管理	2	
					電子工学 II	2			
					電気法規及び施設管理	2			
					応用電気化学大意	2			
					○電気工学実験 I	2			
				○電気工学実験 II	2				
				総合工業論	2				
小計		4		8		24		12	
計		15		32		46		15	

注) ○印の電気工学実験は3科目中、2科目以上を修得すること。

【電子情報工学科】令和3年度入学生（21台）

【共通教育科目（省略）】

△印及び▲印は選択必修

科目	年次	第1年次					第2年次					第3年次					第4年次							
		授業科目					単位	授業科目					単位	授業科目					単位					
工学共通科目	必修科目	微分積分	微分積分	微分積分	微分積分	微分積分																		
	小計						14																	
	選択科目	図学				I	2	化学	理学	工学	A	2	基礎	基礎	防統	災計	学I	2						
	小計						2						12						6					
計						16						12						6						
専門教育科目	必修科目	全コース共通	電気	電気	回路	回路	I	2	論電	子情	報工	学実	2	電子情報工学特別演習					1					
		小計						12						7						1				
		電子通信コース						2	電半	導子	磁回	工学	2	工業					2					
		小計						12						12						4				
		情報コース						2	計算	機工	学I	2	マイ	クロ	コン	ピユ	ータ	2	卒業	業論	文			
		小計						6						6								8		
		情報システムコース						2	オト	マト	ンと	言語	論学	2	デー	タベ	ース	シス				テム	2	卒業
		小計						12						22						8				
		全コース共通						2	△数	値計	算法	学	2	△通	信工	学II	2	ロ	ボテ	イヤ	クス			
		小計						6						6						14				
選択科目	電子通信コース						2	△電	磁波	理論	論学	2	△電	子系	のた	め	の情	報処	理	2	△卒業	業論	文	
							2	△電	子系	のた	め	の情	報処	理	2	△集	積回	路プ	ロセ	ス				
							2	△電	子系	のた	め	の情	報処	理	2	△通	信体	デ	バ	イ				
							2	△電	子系	のた	め	の情	報処	理	2	△半	導エ	レク	ト	ロ				
小計						17						17						28						8
選択科目	情報コース						2	電オ	トマ	ト	ンと	言語	論学	2	デー	タベ	ース	シス	テム	2	卒業	業論	文	
							2	電オ	トマ	ト	ンと	言語	論学	2	デー	タベ	ース	シス	テム	2				
							2	電オ	トマ	ト	ンと	言語	論学	2	デー	タベ	ース	シス	テム	2				
							2	電オ	トマ	ト	ンと	言語	論学	2	デー	タベ	ース	シス	テム	2				
小計						16						16						20						8
選択科目	情報システムコース						2	電電	子回	路処	理I	2	△知	識工	学	2								
							2	電電	子回	路処	理I	2	△画	像処	理工	学	2							
							2	電電	子回	路処	理I	2	△自	然言	語処	理工	学	2						
							2	電電	子回	路処	理I	2	△音	声情	報処	理工	学	2						
小計						10						10						8						

(注) (1) 電子通信コースの学生は選択科目（全コース共通）及び選択科目（電子通信コース）の△印の科目のうち20単位以上修得すること。
 (2) 情報コースの学生は選択科目（全コース共通）及び選択科目（情報コース）の▲印のうち1科目以上修得すること。
 (3) 情報コースの学生は選択科目（全コース共通）及び選択科目（情報コース）の4年次開講科目より6単位以上修得すること。
 (4) 情報システムコースの学生は選択科目（情報システムコース）の△印のうち2科目以上修得すること。

【化学システム工学科】令和3年度入学生（21台）

【共通教育科目（省略）】

△印は選択必修

科目	年次	第1年次		第2年次		第3年次		第4年次			
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位		
工学 共通 科目	必修科目	微積分 I	2								
		行列と行列式 I	2								
		力学 A	2								
		基礎物理学 A	2								
		基礎物理学 B	2								
		基礎物理学実験	2								
	化学基礎	2									
	化学実験	2									
	小計		14								
	選択科目	△	微積分 II	2	統分積分 IV	2	基礎防災学	2	数理統計 I	2	
行列と行列式 II			2	関数論	2						
力学 B			2	物理学 C	2						
物理学 A			2	力学 C	2						
小計		8		2		2		2			
小計		22		10		2		2			
専 門 教 育 科 目	必修科目	△	修学基礎演習 I	1	化学工学演習 I	1	化学工学演習 II	3	化学工学演習 III	1	
			化学工学と社会学	2	化学工学実験 I	4	化学工学実験 II	6	化学工学演習 IV	1	
			基礎無機化学	2	技術者倫理	2	外書講読・コミュニケーション	2	化学工学特別講義	2	
			基礎有機化学	2	生物科学	2	反応工学	2	卒業論文	4	
			基礎有機化学 II	2	情報処理基礎	2	研究開発序論	2			
			解析化学	2	化学工学プログラミング	2	地球環境科学	2			
			化学工学計算法	2	応用物理学	2					
					化学反応速度論	2					
					化学反応速度論	2					
					流体工学	2					
	小計		13	19		17		8			
	選択科目	△	化学工学コース			化学工学数学	2	伝熱工学	2	化学装置設計	2
						粉粒体工学	2	拡散分離工学	2		
								物質移動工学 I	2		
								輸送現象	2		
								化学プロセス工学	2		
							プロセスシステム工学	2			
小計			4		12		2				
選択科目	△	分子工学コース			工業有機化学	2	無機製造化学	2	高分子化学		
					環境安全工学	2	触媒プロセス工学	2			
					工業無機化学	2	工業有機材料	2			
							物質移動工学 II	2			
							応用物性工学	2			
			小計			6		10		2	
選択科目	△	両コース共通	グラフィックデザイン	2	機器分析	2	機械的分離工学	2	エネルギー工学概論	2	
			工業無機材料	2	量子化学概論	2	電気工学通論	2			
					工業微生物学概論	2	医療薬理化学	2			
							生物化学工学	2			
							総合工業論	2			
			小計		4	6		10		2	
選択科目	△	化学工学コース			工業有機化学	2	無機製造化学	2	高分子化学	2	
					環境安全工学	2	触媒プロセス工学	2			
					工業無機化学	2	工業有機材料	2			
							物質移動工学 II	2			
							応用物性工学	2			
			小計			6		10		2	
選択科目	△	分子工学コース			化学工学数学	2	伝熱工学	2	化学装置設計	2	
					粉粒体工学	2	拡散分離工学	2			
							物質移動工学 I	2			
							輸送現象	2			
							化学プロセス工学	2			
							プロセスシステム工学	2			
小計			4		12		2				

注) いずれのコースの学生も、両コース共通選択科目及び履修するコースの選択科目について3年次科目から4単位以上修得しなければならない。

【社会デザイン工学科】令和3年度入学生（21台）

【共通教育科目（省略）】

△印は選択必修

科目	年次	第1年次			第2年次			第3年次			第4年次		
		授業科目		単位	授業科目		単位	授業科目		単位	授業科目		単位
工学 共通 科目	必修 科目	微分積分学	微分積分学	2	物理学実験	2							
		微分積分学	微分積分学	2									
		微分積分学	微分積分学	2									
		微分積分学	微分積分学	2									
	小計			14		2							
工学 共通 科目	選択 科目	図物理学	学A	2	化学実験A	2	基礎防災学	2					
		図物理学	学A	2	化学実験III	2							
		図物理学	学A	2	化学実験IV	2							
		図物理学	学A	2	化学実験IV	2							
	小計			4		8		2					
	計			18		10		2					
専 門 教 育 科 目	必修 科目	建設材料学	観光学	2	静定構造力学及び演習	3	橋梁工学 河川工学 地盤工学 都市計画 環境アセスメント 構造・空間デザイン演習 材料・地盤実験 キャリアデザイン キャリア演習 技術者倫理	2	卒業論文	4			
		建設材料学	観光学	2	不静定構造力学及び演習	3							
		環境工学概論	観光学	2	基礎水理学及び演習	3							
		測量実習	観光学	2	応用水理学及び演習	3							
		社会デザインの力学基礎	観光学	2	基礎地盤力学及び演習	3							
		工業数学	観光学	2	応用地盤力学及び演習	3							
		社会デザインとの出会い	観光学	1	社会基盤計画学	2							
			観光学	2	交通計画学	2							
			観光学	2	コンクリート工学	2							
			観光学	2	鉄筋コンクリート工学	2							
			観光学	2	建設施工学	2							
			観光学	2	地球環境工学	2							
			観光学	2	上下水道学	2							
			観光学	1	水理・環境実験	1							
	小計			15		35		19		4			
専 門 教 育 科 目	選択 科目						耐震工学・地震防災学 水資源工学 防災・環境地盤工学 景観デザイン論 建設マネジメント 廃棄物資源循環工学 実践測量実習 建設CAD 社会基盤の維持管理 工業火災学 総合工業	2					
	小計						21						
	計			15		35		40	4				

【建築学科】令和3年度入学生 (21台)

【共通教育科目 (省略)】

△印は選択必修

科目	年次	第1年次			第2年次			第3年次			第4年次		
		授業科目			単位	授業科目			単位	授業科目			単位
工学 共通 科目	必修科目	微分積分学	行列と積分学	微分積分学	2	物理学実験	2						
		微分積分学	行列と積分学	微分積分学	2								
	選択科目	微分積分学	行列と積分学	微分積分学	2	統計学実験C	2						
		微分積分学	行列と積分学	微分積分学	2								
	小計				10		2						
小計				20		8							
専 門 教 育 科 目	必修科目	全コース共通	建築力学概論	建築力学概論	2	構造力学演習	2	建築力学概論	2	建築力学概論	2	卒業計画	6
		全コース共通	建築力学概論	建築力学概論	2	構造力学演習	2	建築力学概論	2	建築力学概論	2	卒業計画	6
		全コース共通	建築力学概論	建築力学概論	2	構造力学演習	2	建築力学概論	2	建築力学概論	2	卒業計画	6
		全コース共通	建築力学概論	建築力学概論	2	構造力学演習	2	建築力学概論	2	建築力学概論	2	卒業計画	6
		全コース共通	建築力学概論	建築力学概論	2	構造力学演習	2	建築力学概論	2	建築力学概論	2	卒業計画	6
	小計				17		24					8	
	設計・計画	都市設計	都市設計	都市設計	2	都市設計	2	都市設計	2	都市設計	2	地域計画	2
	設計・計画	都市設計	都市設計	都市設計	2	都市設計	2	都市設計	2	都市設計	2	地域計画	2
	設計・計画	都市設計	都市設計	都市設計	2	都市設計	2	都市設計	2	都市設計	2	地域計画	2
	設計・計画	都市設計	都市設計	都市設計	2	都市設計	2	都市設計	2	都市設計	2	地域計画	2
	設計・計画	都市設計	都市設計	都市設計	2	都市設計	2	都市設計	2	都市設計	2	地域計画	2
	小計											2	
構造	構造力学	構造力学	構造力学	2	構造力学	2	構造力学	2	構造力学	2			
構造	構造力学	構造力学	構造力学	2	構造力学	2	構造力学	2	構造力学	2			
構造	構造力学	構造力学	構造力学	2	構造力学	2	構造力学	2	構造力学	2			
構造	構造力学	構造力学	構造力学	2	構造力学	2	構造力学	2	構造力学	2			
構造	構造力学	構造力学	構造力学	2	構造力学	2	構造力学	2	構造力学	2			
小計													
全コース共通	構造力学	構造力学	構造力学	2	構造力学	2	構造力学	2	構造力学	2	建築防災	2	
全コース共通	構造力学	構造力学	構造力学	2	構造力学	2	構造力学	2	構造力学	2	建築防災	2	
全コース共通	構造力学	構造力学	構造力学	2	構造力学	2	構造力学	2	構造力学	2	建築防災	2	
全コース共通	構造力学	構造力学	構造力学	2	構造力学	2	構造力学	2	構造力学	2	建築防災	2	
全コース共通	構造力学	構造力学	構造力学	2	構造力学	2	構造力学	2	構造力学	2	建築防災	2	
小計				3		18					5		
総合	総合	総合	総合	2	総合	2	総合	2	総合	2			
総合	総合	総合	総合	2	総合	2	総合	2	総合	2			
総合	総合	総合	総合	2	総合	2	総合	2	総合	2			
総合	総合	総合	総合	2	総合	2	総合	2	総合	2			
総合	総合	総合	総合	2	総合	2	総合	2	総合	2			
小計													
設計・計画	都市設計	都市設計	都市設計	2	都市設計	2	都市設計	2	都市設計	2	地域計画	2	
設計・計画	都市設計	都市設計	都市設計	2	都市設計	2	都市設計	2	都市設計	2	地域計画	2	
設計・計画	都市設計	都市設計	都市設計	2	都市設計	2	都市設計	2	都市設計	2	地域計画	2	
設計・計画	都市設計	都市設計	都市設計	2	都市設計	2	都市設計	2	都市設計	2	地域計画	2	
設計・計画	都市設計	都市設計	都市設計	2	都市設計	2	都市設計	2	都市設計	2	地域計画	2	
小計											2		
構造	都市設計	都市設計	都市設計	2	都市設計	2	都市設計	2	都市設計	2	地域計画	2	
構造	都市設計	都市設計	都市設計	2	都市設計	2	都市設計	2	都市設計	2	地域計画	2	
構造	都市設計	都市設計	都市設計	2	都市設計	2	都市設計	2	都市設計	2	地域計画	2	
構造	都市設計	都市設計	都市設計	2	都市設計	2	都市設計	2	都市設計	2	地域計画	2	
構造	都市設計	都市設計	都市設計	2	都市設計	2	都市設計	2	都市設計	2	地域計画	2	
小計											2		

5.4 図書工学部分室書籍貸出数

工学部分室蔵書冊数は、令和2年度以降、図書館の所蔵の取り扱いの変更のため大きく減少している。所蔵開始当初は、分室の蔵書としていた図書のうち、利用が少ない図書は、分室の書架狭隘のため旧中央図書館に別置しており、平成24年新中央図書館設立時に自動書庫へ移管されていた。令和2年度のシステムリプレイス以前は中央図書館自動書庫へ移管した図書も分室の蔵書として集計していたが、システムリプレイスに伴い所蔵場所で集計することに変更された。そのため、中央図書館自動書庫の工学部分室所蔵の図서가令和2年度より中央図書館の所蔵となり、分室の蔵書が減少した。

また、工学部分室の書籍貸出数、および工学部学生および教職員の図書貸出冊数は、令和2年度に新型コロナ感染対策に伴う学生や教職員の大学構内での活動制限によって大きく減少したが、制限が緩和された令和3年度の貸出数は増加に転じている。

工学部分室蔵書冊数（図書・雑誌）

年度	図書			雑誌			蔵書冊数 合計	全学蔵書 冊数
	和書	洋書	小計	和書	洋書	小計		
平成30年度	80,283	37,019	117,302	26,802	33,622	60,424	177,726	2,026,754
令和元年度	80,972	37,451	118,423	27,136	33,921	61,057	179,480	2,042,234
令和2年度	59,872	17,858	77,730	11,382	14,003	25,385	103,115	2,052,402
令和3年度	60,224	17,671	77,895	11,676	14,301	25,977	103,872	2,062,889

工学部分室書籍貸出数

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
学部学生	3,637	3,680	1,030	2,826
その他学生	2	12	0	12
大学院生	765	674	455	754
教職員	5,659	5,762	4,362	4,598
学外者	27	68	0	0
合計	10,090	10,196	5,847	8,190

図書貸出冊数（本館＋分室）

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
工学部学生	5,373	5,794	1,636	4,120
工学研究科学生	1,114	825	494	999
工学部教職員	6,092	5,936	4,766	4,837

5.5 学生が取得した資格

令和3年度

学科名	資格	人数
電気工学科	第三種電気主任技術者	1
	第三種電気主任技術者（科目合格）	3
	第一種電気工事士	1
	第二種電気工事士	2
	危険物取扱者	1
	二級ボイラー技士	1
	eco検定	1
	英検3級	1
電子情報工学科	IT パスポート	5
	危険物取扱者 乙3類	1
	危険物取扱者 乙6類	1
	陸上特殊無線技士 3級	1
	統計検定 2級	1
	統計調査士	1
	基本情報技術者	6
	英検2級	1
社会デザイン工学科	宅地建物取引士	1
	危険物取扱者（乙種4類）	1
	Microsoft Office Specialist Word2016	1
	Microsoft Office Specialist Excel2016	1
	色彩検定2級	1
	色彩検定UC級	1
	カラーコーディネータースタンダードクラス	1
	ファイナンシャル・プランニング技能士3級	1
建築学科	宅地建物取引士	2
	商業施設士補	10

5.6 「学習意欲の向上と工学基礎教育の充実」プロジェクト

【取組目標】

(1) ものづくり研修：

機械工・電気工・電子情報工の3学科は、外部業者に委託し、学内セミナーとして「自己の探求I（自分を知り、他者を知り、チームビルディングを行う）」プログラムを、また、化学システム工・社会デザイン工・建築の3学科は、日帰り研修で専門性を生かす場の見学を予定した。このセミナー及び研修を行うことで、グループ学習による学生同士のコミュニケーションの場を提供し、教員と学生の親睦及び学科の連帯感の醸成、更に施設見学や研修発表会などを通して学習意欲の向上も目指すとともに、入学した学科への興味と将来の目標を持たせることにより、大学の学習環境への適応を促進し、初年次教育の充実を図ること、また、ものづくりセンターではプロジェクト企画を実施し、ものづくりを通して工学的感性を養い、体験による知識や技術力を備えさせることを取組目標とした。

(2) 学習支援室「T-Square」の設置：

4号館の5階またはヒューマンディベロップメントセンターに学習支援室を設置し、工学部教員0Bを配置して学生相談及び学習指導に当たることを取組目標とした。

【成果】

(1) ものづくり研修：

学内セミナーについては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンラインにより実施した。また、令和2年度実施できなかった2年生についてもオンラインにより実施した。学生同士のコミュニケーションの場を提供し、自己発見・相互理解・チームビルディングなどのセッションを通して、人前で話す練習や人の話を聞いてその気持ちを理解する練習を行った。また、グループワーク（共同作業）を通じてクラスの中で友達を作るとともに、チームワークの大切さを学ぶセミナーについては、令和4年度にも継続して実施を予定しているため、今回の経験を生かした企画をお願いしている。

日帰り研修については、建築学科のみ実施した。同じく令和2年度実施できなかった2年生も参加した。学生は事前学習を行ったうえで、建築物の見学をとおして、その場で資料を参照しながら、引率教員に質問するなど、意欲的な様子がうかがえた。建築への興味がわき、学生間の交流と親睦を深めることができた。社会デザイン工学科では、令和2年度実施できなかった2年生も含めて現場紹介の動画を学生達に視聴させた。

また、ものづくりセンターでは、ロボコン等の全国大会への出場を目指したプロジェクト企画が中止となったものもあるが、令和4年度に出場を予定しているプロジェクト企画の制作をコロナ渦の中でも行える範囲にて行った。

(2) 学習支援室「T-Square」の設置：

4号館の5階に気軽に様々な悩みの相談できる場所「学習支援室(T-Square)」を開設し、工学部教員の0Bが8人の学部学生を対象に、様々な授業科目の学習サポートを延べ112コマ（1コマ90分）学習支援を行った。実際にはHDセンターでサポート支援を実施することも多く、学力不振であった学生を少しずつではあるが学力を身につけさせている。課題は、指導を受ける学生の人数に対して、指導する教員の数が足りないことである。

第6章 国際交流

6.1 学生の留学状況

令和3年度海外派遣学生数

学部実施分 海外研修 マレーシア0人
国際センター実施分 交換留学 0人、海外研修 0人

6.2 「情報技術を用いたグローバル対応エンジニア教育」プロジェクト

コロナ禍で原則として遠隔講義が実施されると共に行動制限が徹底された。当初の計画通りに取り組むことは困難であったものの、工学部グローバル人材育成委員会を中心に学部全体でグローバル人材育成活動に取り組んだ。

(1) 英語能力検定試験TOEIC

英語能力検定試験TOEICについては、講義等で案内することで、受験者数の改善を図った。その結果、大学院受験者の多くがTOEIC試験を受験していた。

(2) SNSやインターネットテレビ会議を用いた国際交流

ソーシャルネットワークサービス（SNS）やインターネットテレビ会議を用いて、学生が海外と交流できる実践的英会話力、英文表現力、英文読解力、プレゼンテーション力、ファシリテーション能力を涵養するために、平成23年に部門間協定を締結したインドネシア・イスラーム州立大ジャカルタ校、平成26年に締結したマレーシアのペトロナス工科大学、韓国の培材大学、平成29年に締結したマレーシアのサイバジャヤ医療科学大学、インドネシアのイスラーム州立大学マラン校、イタリアのパドゥア大学、フランスのバイオ産業大学と継続的に国際交流を行っている。令和2年度からは、ベトナム国家大学ホーチミン市校工科大学、タイのモンクット王工科大学ラートクラバン校、マルタ共和国のマルタ芸術科学技術大学、インドネシアのラジャアリハジャマリティン大学、ベトナムのダラット大学、マレーシアの国際イスラム大学マレーシア、ボスニア・ヘルツェゴビナのバニャ・ルカ大学、東サラエボ大学と大学間協定を締結した。

さらに令和3年度にはオーストラリアのカーティン大学、インドネシアのアイランガ公立大学と大学間協定を締結した。また、タイのチュラロンコン大学とは部門間協定を締結した。これらの活動により、協定校の教員、学生と本学の教員、学生の間で、ソーシャルネットワークサービス（SNS）やインターネットテレビ会議を用いた海外交流が加速した。

(3) 国際プレゼンテーション・コンテスト

学生が個人又はチームで参加する「国際プレゼンテーション・コンテスト」を計画していたが、コロナ禍のため一旦は延期した。後期に入っても感染症の収束の気配がみられなかったため、中止を余儀なくされた。

(4) 海外現地調査

海外調査についても、コロナ禍のため中止を余儀なくされた。

(5) さくらサイエンス交流事業

工学部教員が実施担当として国際青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプログラ

ム)に申請し採択された。当初は研修生を招へいし対面形式のプログラムとしていたが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴いオンライン形式で開催した。

開 催 日：令和4年3月1日（火）・2日（水）
テ ー マ：環境適合型ごみ処理・材料開発先端技術研修
コ ー ス：科学技術研修コース
実 施 責 任 者：三島健司国際センター長
実 施 主 担 当 者：鈴木慎也工学部国際センター委員

6.3 大学間協定・部門間協定

工学部が担当として新規に下記の大学と大学間協定を締結した。

- (1) オーストラリア カーティン大学
- (2) インドネシア アイルランガ公立大学

また、新規に下記の大学と部門間協定を締結した。

- (1) タイ チュラロンコン大学

第7章 就職・進路状況

平成29年度から令和3年度までの5カ年の工学部および工学研究科の就職・進路状況は以下の資料に示す通りである。

これらの資料より、工学部の就職率（就職者/就職希望者数）は令和2年度よりも1.0%減少した97.7%である。就職率は高水準の状態を維持しているものの、5カ年間で減少傾向にある。全学部の就職率は令和2年度よりも0.1%増加した96.1%（文系95.1%、理系98.0%）となっている。新型コロナウイルス感染症の拡大により運輸業や生活関連サービス業等において採用活動を見合わせた企業があり、厳しい就職戦線となった模様である。工学部における今後の就職状況の傾向においても、新型コロナウイルス感染症の影響による景気後退に伴って企業側の採用数が変化することが想定され、先行き不透明な状況になっている。

一方、これまでの工学部各学科における就職対策の成果は、近年の高水準の就職率を導いているものと考えられ、先行き不透明な今後の状況においても引き続き工学部各学科における学生への就職活動に対するサポート・指導が重要になると考えられる。

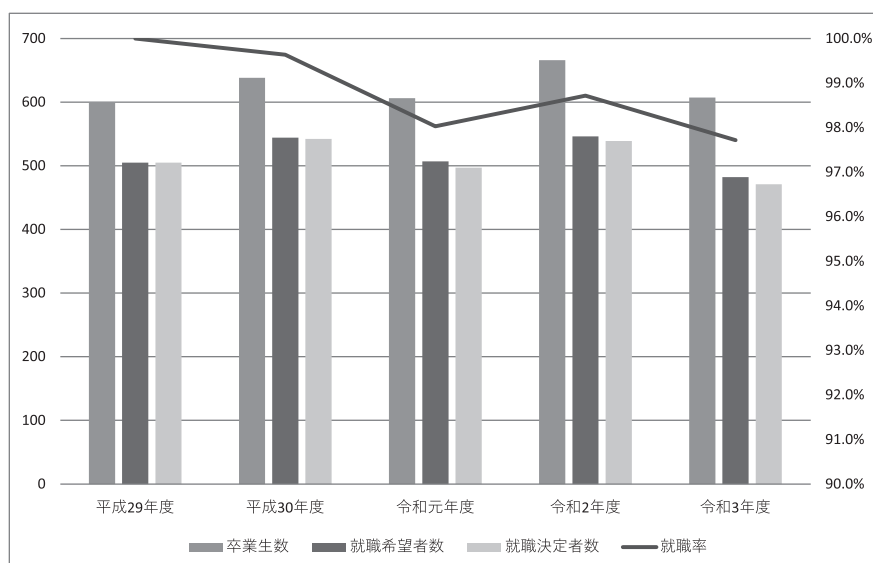
また、令和3年度の大学院進学状況はほぼ例年通りで、進学率は0.2%増加した13.3%である。進学率は5カ年間で微増傾向にある。令和4年度の進学率には新型コロナウイルス感染症の影響が出てくるとも考えられる。

7.1 就職状況

平成29年度から令和3年度までの5年間の工学部全体の就職状況の推移

年	卒業生数	就職希望者数	就職決定者数	就職率
平成29年度	600	505	505	100.0%
平成30年度	638	544	542	99.6%
令和元年度	606	507	497	98.0%
令和2年度	666	546	539	98.7%
令和3年度	607	482	471	97.7%

平成29年度から令和3年度の5年間ににおける工学部全体の就職状況推移



平成29年度から令和3年度までの5年間の工学部学科別就職状況

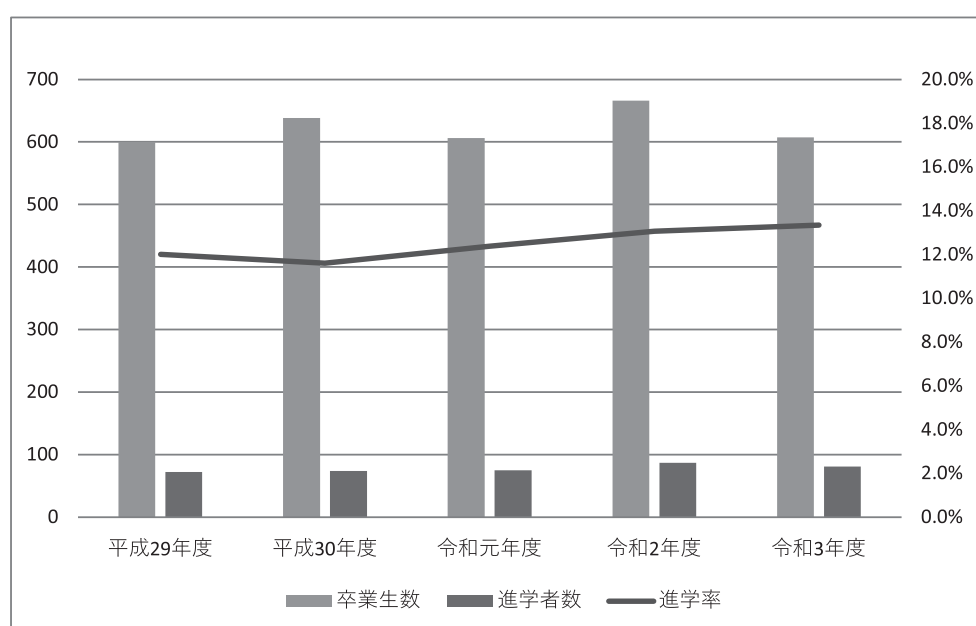
学 科		卒業生数	就職希望者数	就職決定者数	就職率
機 械 工 学 科	平成29年	88	78	78	100.0%
	平成30年	110	102	102	100.0%
	令和元年	89	77	74	96.1%
	令和2年	109	89	89	100.0%
	令和3年	98	80	79	98.8%
電 気 工 学 科	平成29年	101	84	84	100.0%
	平成30年	97	84	84	100.0%
	令和元年	86	78	76	97.4%
	令和2年	97	79	78	98.7%
	令和3年	88	64	63	98.4%
電 子 情 報 工 学 科	平成29年	124	104	104	100.0%
	平成30年	129	112	111	99.1%
	令和元年	129	112	109	97.3%
	令和2年	151	121	119	98.3%
	令和3年	134	104	100	96.2%
化学システム工学科	平成29年	101	77	77	100.0%
	平成30年	101	71	71	100.0%
	令和元年	104	70	69	98.6%
	令和2年	99	77	75	97.4%
	令和3年	87	64	61	95.3%
社会デザイン工学科	平成29年	89	77	77	100.0%
	平成30年	93	76	76	100.0%
	令和元年	106	93	93	100.0%
	令和2年	111	97	97	100.0%
	令和3年	100	86	86	100.0%
建 築 学 科	平成29年	97	85	85	100.0%
	平成30年	108	99	98	99.0%
	令和元年	92	77	76	98.7%
	令和2年	99	83	81	97.6%
	令和3年	100	84	82	97.6%

7.2 大学院進学状況

平成29年度から令和3年度までの5年間の工学部全体の大学院進学状況の推移

年	卒業生数	進学者数	進学率
平成29年度	600	72	12.0%
平成30年度	638	74	11.6%
令和元年度	606	75	12.4%
令和2年度	666	87	13.1%
令和3年度	607	81	13.3%

平成29年度から令和3年度までの5年間の工学部全体の大学院進学状況の推移



平成29年度から令和3年度の5年間における工学部学生の進学先

年	進学先（括弧内の数字は進学者数で1は省略している）
平成29年度	福岡大学(56), 九州大学(14), 九州工業大, 奈良先端科学技術大学院大学, 早稲田大学, 電気通信大学
平成30年度	福岡大学(44), 九州大学(12), 佐賀大学, 大阪府立大学, 早稲田大学(2), 九州工業大学, 愛媛大学, 鳴門教育大学, 大阪大学, 山形大学, 大阪府立大学
令和元年度	福岡大学(59), 九州大学(9), 九州工業大(3), 北陸先端科学技術大学院大学, 早稲田大学, 鳴門教育大学, 鹿児島大学
令和2年度	福岡大学(72), 九州大学(10), 東京工業大学(2), 神戸大学, 東京大学, 東北大学
令和3年度	福岡大学(65), 九州大学(8), 立命館大学(3), 鹿児島大学, 東北大学, 長崎大学, 東京都立大学, 東京工業大学

平成29年度から令和3年度までの5年間の工学部学科別大学院進学状況

学 科		卒業生数	進学者数	進学率
機 械 工 学 科	平成29年	88	9	10.2%
	平成30年	110	4	3.6%
	令和元年	89	10	11.2%
	令和2年	109	18	16.5%
	令和3年	98	13	13.3%
電 気 工 学 科	平成29年	101	11	10.9%
	平成30年	97	9	9.3%
	令和元年	86	7	8.1%
	令和2年	97	12	12.4%
	令和3年	88	14	15.9%
電 子 情 報 工 学 科	平成29年	124	12	9.7%
	平成30年	129	12	9.3%
	令和元年	129	11	8.5%
	令和2年	151	13	8.6%
	令和3年	134	17	12.7%
化学システム工学科	平成29年	101	20	19.8%
	平成30年	101	26	25.7%
	令和元年	104	28	26.9%
	令和2年	99	21	21.2%
	令和3年	87	17	19.5%
社会デザイン工学科	平成29年	89	10	11.2%
	平成30年	93	16	17.2%
	令和元年	106	12	11.3%
	令和2年	111	10	9.0%
	令和3年	100	8	8.0%
建 築 学 科	平成29年	97	10	10.3%
	平成30年	108	7	6.5%
	令和元年	92	7	7.6%
	令和2年	99	13	13.1%
	令和3年	100	12	12.0%

第8章 地域貢献

工学部および工学研究科では、教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動、ボランティア活動、学外組織との連携協力による教育研究の推進などを行っている。

8.1 社会へのサービス活動

令和3年度の講演活動は、工学部・工学研究科全体で19件であった。企業や技術者団体、行政機関等が主催する技術者向けの専門性の高い講習会・研究集会での講演をはじめ、環境問題をテーマとした一般市民や学生向けのセミナーなどの幅広い講演活動を行っている。

審議会・委員会活動では、国および地方自治体が設置する審議会・委員会の委員等に就任し、大学研究者としての社会的役割を果たしている。特に、社会デザイン工学科では、景観、交通、都市計画、災害対策など数多くの審議会・委員会に参画している。

(1) 社会へのサービス活動 ①講演活動

学科・グループ	活動名（主催者名）
機 械 工 学 科	高圧ガス製造保安責任者講習（甲種機械）講師（高圧ガス保安協会）
	令和3年度水素エネルギー開発研究会講師（西日本テクノコンソーシアム）
化学システム 工 学 科	化学工学技術者向け講習会（化学工学会九州支部）
社会デザイン 工 学 科	街なか低未利用地活用官民連携検討会・講話「まちの賑わいをどう創り出すか」（宗像市）
	博多まちづくり協議会&博多駅エリア発展協議会合同WG勉強会「博多駅周辺のまちづくり-HDCおよび博多まち協のフィールドワーク結果について-」（博多まちづくり協議会・博多駅エリア発展協議会）
	小田部公民館ふれあい教室（小田部公民館）
建 築 学 科	環境騒音・振動セミナー（九州リオン株式会社）
	音響技術セミナー（日本音響学会）
	JFMA 公共施設FM研究部会講演 （公益社団法人 日本ファンリティアマネジメント協会）
	令和3年度 鉄骨工事管理責任者認定考査 更新講習会 （一般社団法人日本鋼構造協会）
	令和3年度 鋼構造技術者育成のための講習会 （一般社団法人日本鋼構造協会）
資源循環・環境 グ ル ー プ	廃棄物の最終処分技術：福岡方式について講演（北九州化学装置懇話会）
	Monitoring for Understanding of Landfill Situation （国連ハビタットミャンマー事務所）
	九州環境技術創造道場講師（環境技術創造研究所・北九州市役所）
	廃棄物処理施設技術管理者講習講師 最終処分場の維持管理 （一般財団法人日本環境衛生センター）

学科・グループ	活動名（主催者名）
資源循環・環境 グループ	廃棄物処理施設技術管理者講習講師 廃棄物処理技術特論 (一般財団法人日本環境衛生センター)
	課題解決EXPO2021 エコテクノ2021出展 (公益財団法人北九州観光コンベンション協会)
	市民講座エコスクール（資環研）
ものづくり センター	ロボット製作をテーマとした小学生向けの出前授業(久留米市立篠山小学校)

(1) 社会へのサービス活動 ②行政等の審議会・委員会活動

学科・グループ	審議会等の名称・職名
機械工学科	日本自動車研究所FCV基準委員会・委員
	高圧ガス保安協会鋼材ステアリング委員会・委員
	日本自動車技術会 九州支部・令和2-令和3年度支部理事
	物質・材料研究機構 令和3年度構造材料データシート懇談会・委員
社会デザイン 工 学 科	国土交通省九州地方整備局新技術活用評価会議・委員
	国土交通省九州地方整備局九州のフィールドに適応した新技術の活用を促進委員会・委員
	九州地方整備局防災ドクター(TEC-DOCTOR)・委員
	福岡県雨量通行規制見直し検討委員会・委員
	福岡都市圏技術ナレッジ・アライアンス制度・委員
	熊本市液状化対策技術検討委員会・委員
	九州地盤情報システム協議会・企画部会部会長
	福岡県環境影響評価・専門委員
	福岡市大規模小売店舗立地協議会・委員
	福岡市保健環境研究委員会・委員
	福津市環境審議会・副委員長
	福津市・古賀市産業廃棄物連絡協議会・会長
	大分県新広域道路交通ビジョンに関する有識者懇談会・委員
	福岡市営駐車場の貸付及び売却に係る候補者選定評価委員会・委員長
	福岡北九州高速道路公社福岡高速道路リフレッシュ工事検討委員会・委員長
	久留米市拠点形成・土地利用推進委員会・委員長
大野城市自転車活用推進計画協議会・会長	
福岡北九州高速道路交通問題アドバイザー	
福岡北九州高速道路事業再評価監視委員会・副委員長	

学科・グループ	審議会等の名称・職名
社会デザイン 工 学 科	福岡市総合計画審議会・委員
	大分県「大分市交通円滑化検討会」・委員長
	糸島市総合計画審議会・委員
	天神明治通り街づくり協議会街づくり協議委員会・議長
	福岡県県土整備部・建築都市部公共事業再評価検討委員会・委員
	久留米市都市計画マスタープラン等策定委員会・委員長
	九州・長崎IR区域整備推進有識者会議・委員
	福岡市福岡箱崎地域都市再生緊急整備地域準備協議会・副委員長
	福岡市地下鉄経営戦略懇話会・座長
	福岡県都市計画審議会・委員
	一般社団法人九州貸切バス適正化センター適正化事業諮問委員会・委員長
	福岡市附置義務特例制度審査会・アドバイザー
	北部九州圏都市交通計画協議会専門部会・部会長
	大牟田市中心市街地活性化協議会・委員
	天神明治通り街づくり協議会・街づくりアドバイザー
	大分都市圏総合都市交通計画推進協議会・委員長
	九州地方整備局事業評価監視委員会・副委員長
	九州大学箱崎キャンパス跡地利用協議会・委員
	筑紫野市地域公共交通会議・委員
	公益財団法人九州運輸振興センター懸賞論文審査委員会・委員
	公益財団法人九州運輸振興センター・アドバイザー
	福岡県都市計画審議会・専門委員
	福岡市総合交通戦略協議会・会長
	福岡市大規模小売店舗立地協議会・委員/交通部会長
	広川町地域公共交通協議会・座長/アドバイザー
	久留米市地域公共交通会議・副会長
	九州運輸局地域公共交通に関する第三者評価委員会・委員
	西鉄柳川駅周辺地区デザイン検討会議・委員
	那珂川市都市計画審議会・副会長
	福岡県政府調達苦情検討委員会・委員長代理
志免町都市計画審議会・会長代理	
福岡県交通対策協議会・委員	

学科・グループ	審議会等の名称・職名
社会デザイン 工 学 科	福岡市道路下水道局が所管する公の施設に係る指定管理者候補選定委員会・委員長
	福岡市都市計画審議会・委員
	久留米市都市計画審議会・会長
	筑前町公共交通活性化対策委員会・会長
	久山町都市計画審議会・会長
	福岡県総合評価技術委員会委員・委員長
	九州地方整備局総合評価技術委員会・委員
	福岡国道事務所景観委員会・景観アドバイザー
	遠賀川水系清流ルネッサンス2フォローアップ議会・委員
	球磨川下流域環境デザイン検討委員会 水生生物ワーキンググループ・委員
	有明・八代海海域環境検討委員会 環境再生技術等検討ワーキンググループ・委員
	福岡未来創造プラットフォーム 地域人材育成ワーキンググループ・構成員
	福岡市総合評価技術審査委員会・委員
	福岡地区水道企業団総合評価技術審査委員会・委員
	錦帯橋世界遺産専門委員会・副委員長
	広島県「竹原市歴史的風致維持向上計画協議会」・委員
	大分県 津久見川・彦の内川 河川激甚災害対策特別緊急事業景観・まちづくりアドバイザー
	松浦市景観審議会・委員長
	大分県景観アドバイザー
	国土交通省九州地方整備局景観委員会・委員長
	久留米市景観アドバイザー
	福岡県警察犯罪予防研究アドバイザー
	宗像市景観審議会・委員/景観アドバイザー
	北九州市関門景観審議会・委員
	鳥栖市都市計画審議会・委員
	福岡県環境影響評価専門委員
国土交通省九州地方整備局 宮崎海岸侵食対策検討委員会/効果検証分科会・委員	
北九州市景観審議会・委員長	
五島市久賀島の文化的景観整備活用委員会・委員	
柳川市景観アドバイザー / 景観審議会・委員長	

学科・グループ	審議会等の名称・職名
社会デザイン 工 学 科	福岡市都市景観賞・審査委員
	福岡市都市景観審議会・委員
	長崎県美しい景観形成アドバイザー
	久留米市景観審議会・委員
	佐賀県美しい景観づくりアドバイザー
	久留米市屋外広告物審議会・委員
	風景デザイン研究会・会長
	うきは市長野伏越周辺利活用検討委員会・委員
	福岡市環境影響評価専門委員
	豊前市外二町清掃施設組合ごみ処理施設整備計画策定委員会・委員長
	日本学術振興会 R023レジリエントインフラ創成委員会・委員
	福岡県交通対策協議会自転車活用推進計画検討委員会・委員長
	一般社団法人九州貸切バス適正化センター・代表理事（会長）
	令和3年度長崎県科学技術賞選考委員会・委員
	福岡市オンデマンド交通社会実験に係る評価委員会・委員長
	新佐世保警察署(仮称)建設工事設計プロポーザル・審査委員
	JR古賀駅東口周辺地区整備ガイドライン策定会議・委員長
国土交通省九州地方整備局下関北九州道路環境影響評価技術検討委員会・委員	
新宮町立地適正化計画策定協議会・会長	
建 築 学 科	佐賀県環境影響評価審査会・会長
	福岡県公害審査会・委員
	福岡県環境審議会・委員
	福岡県建築都市部プロポーザル選定委員会・委員
	福岡市公共事業再評価等監視委員会・委員
	福岡市マンション管理適正化推進計画検討委員会・委員
	福岡市設計プロポーザル技術委員会・副委員長
	福岡市空家等審議会・会長
	糸島市公共施設マネジメント検証委員会・委員長
	小郡市公共施設等総合管理計画審議会・委員
	一般財団法人日本建築センター 超高層・免震等建築物構造評定委員会・委員
	一般財団法人日本建築総合試験所 建築構造性能評価委員会・委員
	福岡市福岡市総合評価技術委員会・委員

学科・グループ	審議会等の名称・職名
建 築 学 科	福岡市福岡都市圏技術ナレッジ・アライアンス制度・委員
	うきは市浮羽まるごと博物館協議会・会員
資源循環・環境 グ ル ー プ	福岡県産業廃棄物審議会・委員
	福岡県総合計画審議会・委員
	福岡県保健環境関係試験研究外部評価委員会・委員
	福岡県使用済みプラスチックリサイクル施設整備補助金審査委員会・委員
	福岡県リサイクル施設整備補助金審査委員会・委員
	福岡市保健環境研究委員会・委員
	福岡市環境影響評価審査委員会・委員
	福岡市環境審議会・委員
	福岡市事業系ごみ資源化推進ファンド運営委員会・委員長
	福岡市環境行動賞選考委員会・委員
	福岡市産業廃棄物調整委員会・委員
	福岡市自動車専用道路アイランドシティ線環境影響評価に係る環境モニタリング有識者委員会・委員
	福岡市空家等審議会・委員
	熊本県廃棄物対策委員会・委員
	佐賀県廃棄物処理施専門委員会・委員
	久留米市産業廃棄物審議会・委員
	九州地方整備局防災ドクター (TEC-DOCTOR)・委員
	九州地方整備局総合評価技術委員会・委員
	九州防衛局総合評価アドバイザー
	福岡県リサイクル製品認定審査委員会・委員長
福岡県生コンクリート品質管理監査会議・顧問	
福岡市橋梁アセットマネジメント推進委員会・委員長	
福岡都市圏技術ナレッジアライアンス制度・委員	
福岡市総合評価技術審査委員会・委員長	
福岡県公害審査会・委員	
ものづくり セ ン タ ー	ロボカップJr・大会運営委員

8.2 社会へのボランティア活動

令和3年度の社会へのボランティア活動は、工学部・工学研究科全体で7件であった。研究開発支援拠点の運営、環境問題に対するイベントや出前講座への参画、地域でのボランティア活動を行っている。

(2) 社会へのボランティア活動

学科・グループ	活動名
電子情報 工学科	(財)福岡県産業科学技術振興財団三次元半導体研究センター・センター長
社会デザイン 工学科	環境わくわく出前事業（講師派遣事業）
	地域協働による室見川シロウオ産卵場づくり
建築学科	KASEI（九州建築学生仮設住宅環境改善）プロジェクト
	星の原団地集会所改修プロジェクト
	香陵校区まちづくり協議会における活動
ものづくり センター	くるめ少年少女発明クラブでの指導（一般社団法人福岡県発明協会）

8.3 学外組織との連携協力による教育研究の推進

令和3年度の学外組織との連携協力による教育研究は、工学部・工学研究科全体で16件であった。様々な専門分野において研究成果の実用化や技術者育成等を目指し、行政機関、民間企業、他大学との共同研究、自治体の計画および事業への参画による研究成果の還元等の活動に積極的に取り組んでいる。

(3) 学外組織との連携協力による教育研究の推進

学科・グループ	活動名（連携主体名）
電子情報 工学科	直方市遠賀川樋門管理研究開発（直方市・アドバンテック他）
	学研ヒルズ学際駅伝大会（学研ヒルズ学際駅伝大会実行委員会・九州工業大学社会ロボット具現化センター）
	トマトロボット競技会（トマトロボット競技会実行委員会・九州工業大学社会ロボット具現化センター他）
社会デザイン 工学科	災害廃棄物情報プラットフォームに基づく支援活動（国立環境研究所）
	津久見川・彦の内川 河川激甚災害対策特別緊急事業（大分県臼杵土木事務所・津久見市）
	柳川沖端水天宮周辺地区デザイン検討（柳川市）
	国体道路・春吉橋景観デザイン検討（国土交通省福岡国道事務所・福岡市）
	福岡筑後プラスチックリサイクルループ研究会（大木町・みやま市・柳川市・大川市・筑後市）
	JICAペルー国TOD能力強化プロジェクト・外部有識者（JICA・日本工営都市空間株式会社）
	福岡県営西公園における基本設計・デザイン監修（福岡県県土整備事務所・株式会社オオバ）
建築学科	四万十川の文化的景観 集落見直し調査（NPO法人新川田籠環境資産保全研究会）
資源循環・環境 グループ	福岡方式のJCM事業評価手法の開発（エックス都市研究所）
	埋立廃棄物の安定化評価のための簡易モニタリング開発（福岡市）
	廃棄物埋立場運営管理技術マニュアル動画の作成（NPO SWAN福岡）
	エチオピア国、ケニア国及びミャンマー国埋立場改善支援事業（国連ハビタット）
	家庭での生ごみ堆肥化の課題調査（ふくおか環境財団）

工学部・工学研究科資料集

Vol.14 (2022.11)

令和4年11月30日発行

編集・発行 福岡大学 工学部・工学研究科

福岡大学 〒814-0180

福岡県福岡市城南区七隈八丁目19番1号

TEL (092) 871-6631 (代表)

FAX (092) 865-6031 (教務三課 工学部事務室内)

<http://www.fukuoka-u.ac.jp/education/undergraduate/engineering/>

